

# 植 物

2018 山梨県レッドデータブック

山梨県の絶滅のおそれのある野生生物

# 植物

## 1 山梨県レッドデータブック維管束植物におけるカテゴリと具体的な要件

2005 山梨県レッドデータブックでは、絶滅の危険性を示す基準として、環境庁レッドデータブックカテゴリ（環境庁 1997）に準拠したカテゴリ及び具体的な要件を定めており、今回もそのカテゴリ及び具体的な要件を継続して用いることとした。 1 メッシュは 10km × 10km 株数は 100 株を基準とした

カテゴリ及び基本概念	具体的な要件
絶滅 Extinct (EX) 県内ではすでに絶滅したと考えられる種	①既知の生育地で確実に絶滅した種 ②過去に標本が採取されているが、1970 年以降に標本の採取もなされず、絶滅したと考えられる種
野生絶滅 Extinct in the Wild (EW) 栽培下でのみ存続している種	①過去に本県に生育していたことが確認されており、栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種
絶滅危惧 I 類 Critically Endangered + Endangered (CR + EN) 県内において絶滅の危機に瀕している種	
絶滅危惧 I A 類 Critically Endangered (CR) ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種	①出現メッシュ数が 1 の種 ②生育地が 1 ないし 2 箇所、いずれの生育地においても個体数が少ない種 ③生育地が 3 箇所以上あるが、明らかにされると採取圧等により絶滅の可能性が高い種 ④生育地の環境変化に著しく影響されやすく、絶滅のおそれのある種 ⑤ 1970 年以前に標本が採取されている。その後、信頼できる情報はないが、現在も生存の可能性があると考えられる種
絶滅危惧 I B 類 Endangered (EN) I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種	①出現メッシュ数が 2～3 の種 ②現在の生育環境がさらに悪化すると、極端に個体数が減少するか、絶滅のおそれの高い種 ③採取圧によって個体数が減少し、絶滅が危惧される種 ④生育地は保護されているが、個体数が少ない種（高山植物を含む） ⑤ 1 メッシュではあるが、個体数も多く、危険性は絶滅危惧 I A 類ほどではない ⑥メッシュ数が 3～4 以上あるが、各生育地には個体数が少ない種
絶滅危惧 II 類 Vulnerable (VU) 県内において絶滅の危険性が増大している種	①出現メッシュ数が 4～6 の種 ②メッシュ数は 3 以下であるが、個体数は比較的多い。しかし、生育の環境変化により、個体数が減少すると思われる種 ③メッシュ数は 3 以下で個体数は少ないが、特別な場合以外、生育の環境が安定し絶滅の危険性は比較的少ないと思われる種
準絶滅危惧 Near Threatened (NT) 現時点での絶滅危険度は小さいが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリに移行する要素を有するもの	①出現メッシュ数は多いが、生育地において、生育環境の悪化、採取圧などにより、種の存続が圧迫され、今後さらに個体数の減少が進行するおそれのあると思われる種 ②出現メッシュ数が 4～6 であるが、個体数も多く採取の可能性のないもの
情報不足 Data Deficient (DD) 評価するだけの情報が不足している種	①絶滅危惧のカテゴリに移行する可能性を有しているが、生育状況をはじめとして、カテゴリ評価を行うための情報が不足している種

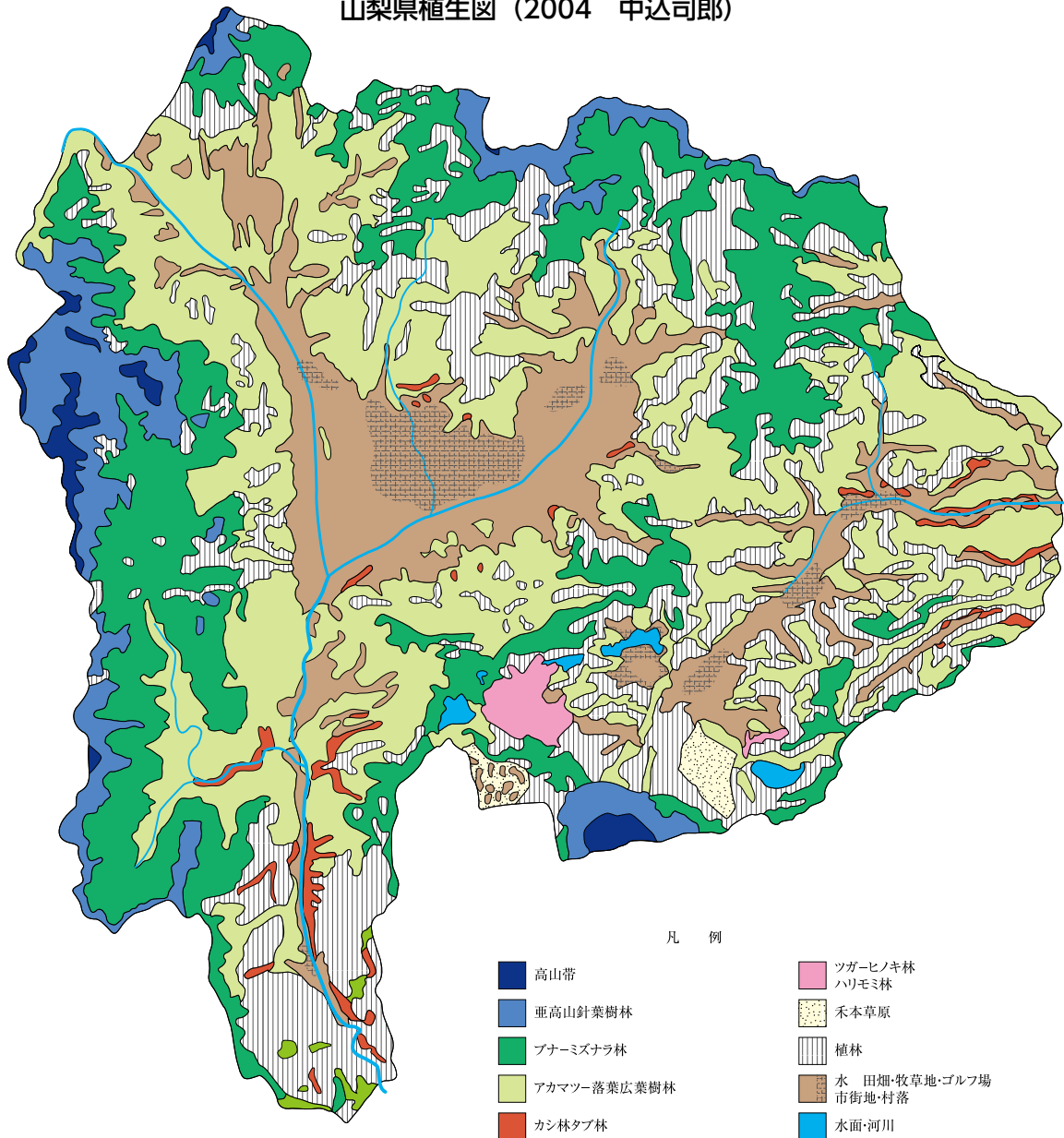
### 付属資料

絶滅のおそれのある地域個体群 Threatened Local Population (LP) 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの	①生育状況、学術的価値等の観点から、レッドデータブックの掲載種に準じて扱うべきと判断される種の地域個体群で、県内で生息域が孤立しており、地域レベルで見た場合絶滅に瀕しているか、その危険性が増大していると判断される個体群 ②地方型としての特徴を有し、生物地理学的観点から見て重要と判断される地域個体群で、県内で絶滅に瀕しているか、その危険性が増大していると判断される個体群
希少な雑種 Rare Hybrid (RH) 自然交配雑種と考えられる植物で、県内で希少な種	①分布上希少な雑種と考えられる植物 ②母種と推定される種の一方もしくは全てが、絶滅危惧種としてレッドリストに掲載されている種

## 2 山梨県の植物分布の概要

本県は、気候、地史、土壌などの環境条件が地域により大きく異なるので、多様な植物が生育するが、外観的な植生分布は、気候的な要素、気温差による影響が大きい。山梨県は、県南部の標高 80m から富士山頂の標高 3,776m まで、標高差は非常に大きく全国でもまれである。そのため、気候区は暖帯、温帯、亜寒帯、寒帯に分けられる。植生区分では、常緑広葉樹林帯、落葉広葉樹林（夏緑広葉樹林）帯、亜高山針葉樹林帯、高山帯である。

山梨県植生図（2004 中込司郎）



### ◎常緑広葉樹林帯

この地域の極相林の代表種は、カシ類で構成される林でカシ帯とも呼ばれている。関東地方以南の平地や丘陵地に見られる。

本県では、富士川流域の県南部から甲府盆地までの海拔 500～600m の地域と県東部の桂川流域にあたる。県の内陸部の極相林はシラカシ、アラカシが中心であるが、県南部では、ウラジロガシ、ツクバネガシの群落や、タブノキが混生する林も見られ、林下にはヤブツバキ、シロダモ、ナンテン、サカキ、アオキ、ベニシダが生育する。

この地域は、古い時代から人間社会の影響を受け、自然植生は大きく変化し、神社や寺院また急傾斜地の川沿いなど、ごく限られたところにしか見られない。

### ◎落葉広葉樹林帯

北海道南部、本州東北地方から中部地方山地、紀伊半島以西、四国、九州の一部に見られる樹林帯で、極相林としてはブナが優占しブナ帯とも呼ばれる。

本県では、カシ帯上部から海拔1,700～1,800mの地域にあたるが、人為的な影響を受け、このような自然林は少ない。カシ帯に接する上部では二次林として、コナラ、クリの中にカエデ・シデ類を交えた林になっている。尾根沿いなどのやせ地はアカマツ林になっている。ブナ帯の1,000m以上はミズナラ、イヌブナ、ウラジロモミ、ツガやコメツガが混生する。

本県のブナの分布は、県南部や東部に比較的多く、県北部や西部に少ない。ブナ林床にはミヤコザサ・スズタケを伴う群落が多い。

### ◎亜高山針葉樹林帯

本州の中部地方を代表とする亜高山帯は、シラビソ（シラベ）、オオシラビソ、コメツガ、トウヒなどの針葉樹からなる。本県では、南アルプス、八ヶ岳、関東山地、富士山の海拔1,800～2,600mの地域である。関東山地の金峰山や南アルプス横川岳には、クロベやチョウセンゴヨウが混生する。

林床には、カニコウモリ、マイヅルソウ、ゴゼンタチバナ、セリバシオガマ、ゴカヨウオウレンなどが生え、樹冠が広く被われ林床が暗くなるとコケ類が優占する。親木が倒れ、陽地になるとダケカンバ、オガラバナ、ネコシデなどの落葉樹が侵入する。

富士山の四合目から五合目以上にかけては、スコレアからなる乾燥した裸地には、カラマツが発達する。

### ◎高山帯

本州中部の高山帯はハイマツが発達する。本県では、南アルプス、八ヶ岳、関東山地の一部の地域である。高山帯でも、気象や土壌条件により生育種は異なるが、ハイマツの他、ミネズオウ、クロマメノキ、オヤマノエンドウ、チシマギキョウ、チングルマなどが生える。北岳は地史的・地質的な要素と推測されるが、キタダケソウを始めとした北岳特有な植物も多くある。また、富士山は氷河期以降の火山であるため、ハイマツはなく匍匐状のカラマツが発達する。

## 3 調査概要

山梨県植物研究会に調査研究を行うための特別部会（山梨県絶滅危惧植物調査会 調査員15名 調査協力員3名）を設けて調査種を分担、2005年以降の生育状況や生育環境等最新の知見を収集し、見直し作業を行うこととした。

前回の調査は文献資料として「山梨の植物誌（1981 植松）」「山梨県植物誌（1982 山梨県）」及び「山梨県の樹木（1982 中込）」その他過去の研究報告書をリスト作成の基本とした。今回はその後の県内における文献資料として山梨県植物研究会誌「山梨植物研究1～29」「県内市町村誌植物篇集成 山梨県の植物分布（2008 小林）」の記載内容を再整理するとともに、各調査員が2005年以降に行った調査記録を取りまとめ、2005年以降の各種研究報告書等の既存情報を精査して、それらに基づき生育状況・生育環境について、全県レベルで現地調査を実施した。

現地調査の対象種は、環境省の第4次レッドリストにならない、種・亜種・変種を単位とし、不稔性の雑種及び分類学上品種とされるもの、また海外から導入された種は原則として対象から除いた。現地調査では、2005年度版山梨県レッドデータブックに記載された455種と環境省第4次レッドリストの追加種の現況把握調査を行うとともに、2005年以降県内で生育が確認されている未記載種及びニホンジカの食害による植生の変化や開発行為等による生育適地の減少のため急速な消失が想定される種についての補完的調査を重点的に行った。

これらの調査結果はデータベース化し、カテゴリー判定を行うための資料とするとともに、県内の生育地域について新たなメッシュ地図の作成を行った。また、必要な種について証拠標本を作成した。

## 4 レッドリスト種の選定経過

調査結果をカテゴリーの具体的要件に基づいて評価し、県内での生育が危機的状況にあると考えられるレッドリスト種の選定を行った。

選定の根拠（理由）

- a 生育地が限定され、生育個体数が少ない種（希少種）
- b 全国的には多いが本県には少ない種（分布限界種などを含む）
- c 特殊な立地条件に生育し、特徴種とされる種（高山植物・石灰岩地植物・湿地・水生）
- d 生育環境の変化により個体数が減少している種
- e 山梨県で初めて記録された種

なお今回の選定種の種名および科の配列は、環境省の絶滅危惧種リストであるレッドリストの選定時に使用する目的で、日本植物分類学会のデータベース委員会と絶滅危惧植物第一委員会が編纂したグリーンリスト（被子植物・裸子植物・シダ植物）に基づいて記載した。

## 5 選定結果

今回絶滅危惧種として扱った種数は、野生絶滅(EW)4種、絶滅危惧IA類(CR)135種、絶滅危惧IB類(EN)166種、絶滅危惧II類(VU)88種、準絶滅危惧(NT)34種、情報不足(DD)42種、合計469種である。新たにランクインした種は野生絶滅1種、絶滅危惧I・II類46種、ランクアップした種は86種にのぼる。また新たな掲載種は、絶滅危惧IA類(CR)5種、絶滅危惧IB類(EN)12種、絶滅危惧II類(VU)1種である。このうちシダ植物が5種、ラン科が7種含まれる。

イバラモ科のイトトリゲモ・ヒメイバラモ・イトイバラモの他ヒシ・ミズアオイなどは、今回の調査で個体数や分布についての詳しい情報が得られなかったため、情報不足(DD)として継続調査を行うこととした。

## 6 減少の主な要因と今後の保護策の提言

絶滅が危惧される種の減少要因として、環境省のRDB(2000)によれば園芸採取が最も多く、2番目に自然遷移、3番目に森林伐採があげられている。これらの植物が希少となった原因の多くは人の採取といわれている。今回の調査においても、採取による減少が懸念される種は多い。希少種が公表されることが、かえって採取を助長することとならぬよう祈るばかりである。

今回選定した山梨県内希少種の主な減少要因は、①ニホンジカなど鳥獣の採餌による植生変化、②人為的な森林伐採・開発行為・園芸採取、③植生遷移・環境変化である。そこで以下に減少の主な要因と今後の対策について提言する。

まず山地帯上部から亜高山帯下部にかけてのニホンジカなど鳥獣の採餌による被害はいたるところで見られ、イネ科草本の優占する群落と変化してしまっている。一方、一例をあげるとすれば、櫛形山地域にみられるようなシカの防除柵等の手立てを講じることで、数年後には以前のような草本群落が回復してきた地域もある。野生鳥獣との共存は大きな課題であるが、保護柵の設置は有効な対策の一つと考えられる。

次に南アルプスや八ヶ岳地域には本州中部以外では見ることのできない高山植物がいくつか知られている。そのような特殊な環境に適応した植物、言い換えればその環境でしか生育できない植物がある。高山植物に限らず人為的な森林伐採・開発行為等が行われるとき、そこに生きる多くの植物種が危機に瀕することとなる。

したがって、森林伐採・開発行為等に当たっては、希少植物の生育情報（希少種のランク・個体数・生育状況等）を確認し、有識者や専門家に植生調査を依頼し、状況に応じて関係機関と協議して保護対策・保全対策を検討すべきである。また、園芸採取等は以前より減少している傾向もあるが、貴重な高山植物の人為的な採取も完全にはなくなっていない。隣接する都県と連携を図りながら、条例の整備とともに人のモラルに訴える手段も視野に入れる必要もある。

また、植物全体が白色あるいは淡黄褐色であり無葉緑の植物。これらの植物は光合成によって自分自身で栄養をつくることができず、菌との共生によって生活している。あるいはラン科の植物。その中でも特に樹上で生活する着生植物。今回の希少種のうちいくつかの植物が着生植物である。ラン科植物の種子は、菌が感染して初めて発芽することができるため環境の変化にはことさら敏感で、本来とは異なる場所や本

来とは異なる菌類とは生育できず、急速に消滅することが懸念される。これらの希少植物は微妙な環境状況の中で生育が保持されているため、現在の環境を保全していく対策が必要である。

山梨県の貴重な植物を今後も保護していくためにも、植物の分布と希少性の原因の解明には生態や生理に関する特性をことさら詳細に明らかにする必要がある。生物多様性を保全するために具体的にはどのような点に留意すればよいのかとても難しい課題ではあるが、今後も生育状況や生育環境をしっかりと精査し把握していく必要がある。

山梨県絶滅危惧植物調査会



# サルメンエビネ ラン科

*Calanthe tricarinata* Lindl.

**形態** 茎は球状。葉は3~4個、倒卵状狭長楕円形、無毛、急鋭尖頭、長さ15~25cm。花茎は高さ30~50cm。花序、子房ともに短毛がある。花は4~5月。7~15花を総状にまばらにつける。萼片、側花弁ともに黄緑色。唇弁は紫褐色~紅褐色、萼片と同長で3裂する。

**生育環境** 冷温帯の落葉樹林下に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況**

**特記事項** 御正体山で、1988.6.23. 渡辺（標本 N88003）が確認しているが、最近、生育は確認されていない。今回の調査でも確認できず野生絶滅と判断した。

2018：山梨県カテゴリー  
野生絶滅 (EW)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

分布

	1	2	3						
4	5	6	7	8	9	10			
11	12	13	14	15	16	17			
18	19	20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31	32	33	34	35	
36	37	38	39	40	41	42	43	44	
45	46	47	48	49	50	51	52		
53	54	55	56	57	58	59			
	60	61	62						
		63	64						
			65						

# サギソウ ラン科

*Pecteilis radiata* (Thunb.) Raf.

**形態** 円形の球茎から地下茎を出す。茎の高さは15~40cm。茎の下部に3~5葉をつけ、茎の上部は鱗片葉になる。茎の上部に白鷺が舞うような白い花をつける。側花弁は白色で卵型。唇弁は大きく、3深裂し、中裂片は披針形、側裂片は横に開出する。花期は7~8月。

**生育環境** 日当たりの良い低地の湿地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況**

**特記事項** 山梨県は元々湿地は少なく本種の生育個体は少なかったと思う。過去に1カ所生育していた報告がある。その後、その生育地に数回調査したが確認されないため、今回も「野生絶滅」と判断した。

2018：山梨県カテゴリー  
野生絶滅 (EW)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
野生絶滅 (EW)

分布

	1	2	3						
4	5	6	7	8	9	10			
11	12	13	14	15	16	17			
18	19	20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31	32	33	34	35	
36	37	38	39	40	41	42	43	44	
45	46	47	48	49	50	51	52		
53	54	55	56	57	58	59			
	60	61	62						
		63	64						
			65						

# トキソウ ラン科

*Pogonia japonica* Rchb.f.

**形態** 茎は高さ15~30cm。葉は茎の中段に1枚つき長楕円形でやや直立する。花は紅紫色で茎頂に1個つく。唇弁は3裂し、中裂片は倒卵形で大きい。縁と内面に肉質の突起がある。花期は5~7月。

**生育環境** 山地帯の日当たりの良い湿地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 今回も、以前生育していた湿地に生育の確認が出来ず今回「野生絶滅」とした。

**特記事項** 「山梨県植物誌 1982年 山梨県」に、八代町大口山に稀れと記載されている。今回の調査でも見られないことから、「野生絶滅」と判断した。

2018：山梨県カテゴリー  
野生絶滅 (EW)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
野生絶滅 (EW)

分布

	1	2	3						
4	5	6	7	8	9	10			
11	12	13	14	15	16	17			
18	19	20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31	32	33	34	35	
36	37	38	39	40	41	42	43	44	
45	46	47	48	49	50	51	52		
53	54	55	56	57	58	59			
	60	61	62						
		63	64						
			65						

# フジバカマ キク科

*Eupatorium japonicum* Thunb.

**形態** 高さ1~1.5mの多年草。葉は短い柄があって対生し、長さ8~13cmの長楕円形~長楕円状波針形で、ふつう3深裂する。頭花は淡紅紫色で散房状に多数つき、5個の筒状花がある。

**生育環境** 人里の草地。

**生育状況と絶滅危惧の状況**

**特記事項** 1950年 甲府市愛宕山にて、秋山樹好が確認して以来、確認の報告なし。今後も、野生で生育の可能性がないと判断し、野生絶滅とした。今回の調査で山中湖付近で確認報告もあったが精査が必要である。

2018：山梨県カテゴリー  
野生絶滅 (EW)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
野生絶滅 (EW)

分布

	1	2	3						
4	5	6	7	8	9	10			
11	12	13	14	15	16	17			
18	19	20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31	32	33	34	35	
36	37	38	39	40	41	42	43	44	
45	46	47	48	49	50	51	52		
53	54	55	56	57	58	59			
	60	61	62						
		63	64						
			65						



# ヒメスギラン ヒカゲノカズラ科

*Huperzia miyoshiana (Makino) Ching*

**形態** 常緑性。茎は短く這い、2～3回分岐する枝は、束生状に直立し、高さ10cmぐらいになる。葉は線状披針形でとがり、茎に斜上ないし開出して密に着く。葉の質は、柔らかい。茎の上部の葉腋に胞子嚢を着ける。

**生育環境** 亜高山帯の針葉樹林の湿潤なコケの上に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。県内に点々と生育するが、群落は作らない。

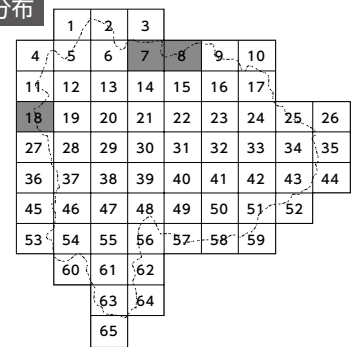
**特記事項** 1970年以前、瑞牆山と三ツ峠にて確認されている。今回の本県調査では3カ所確認された。点々と生育している。 具体的要件③

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

分布



# チシマヒカゲノカズラ ヒカゲノカズラ科

*Lycopodium alpinum L.*

**形態** 常緑性。根茎の匍匐茎は長く這い、まばらに不規則に分岐し、根と鱗片状の葉を着ける。直立茎は、斜上し高さ3～8cm。葉は4列に並び、腹面の葉は背面のものより短く、双方とも茎に圧着する。胞子嚢穂は、小枝に頂生し無柄。

**生育環境** 高山帯の日当たりのよい岩場に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。生育個体数は少ない。地形や植生変化による絶滅が危惧される。

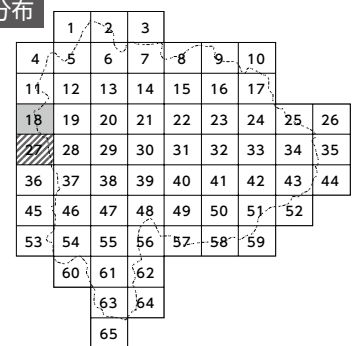
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数2。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

分布



# スギラン ヒカゲノカズラ科

*Phlegmariurus cryptomerinus (Maxim.) Satou*

**形態** 常緑性。茎はまばらに分岐しつつ斜上、大型になった場合、上半分が反曲して下向きに垂れる。茎はわら色か緑色で、大きいものは30cmぐらいになる。線状披針形全縁の葉は、開出または斜上して、長いもの短いものと揃いに密生する。

**生育環境** 湿度の高い沢沿いの落葉樹の巨木や岩上に着生する。群落を作らないため確認が困難。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。個体数は非常に少ない。最近の確認記録も少ない。

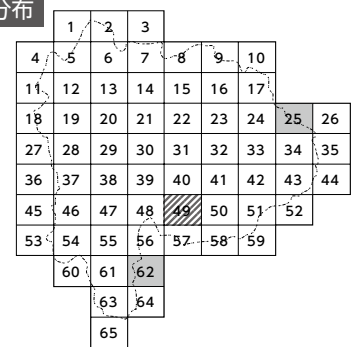
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

分布



# マツバラン マツバラン科

*Psilotum nudum (L.) P.Beauv.*

**形態** 茎だけで葉も根もたない。胞子体の地上部には茎がなく、よく育ったものは30cmほどになる。茎は上の部分で何度か2又に分枝する。分枝した細い枝には稜があり、小さな突起物がある。先端部の分岐した枝に粒のような胞子嚢をつける。胞子嚢は3つに分かれており、熟すと黄色くなる。光合成の代わりに多くの陸上植物とアーバスキュラー菌根共生を営む。

**生育環境** 樹幹や岩の割目などに生育するが、稀に地上に生育することもある。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。サクラの古木に着生や竹林に生育している。今回の調査で2カ所で発見できた。

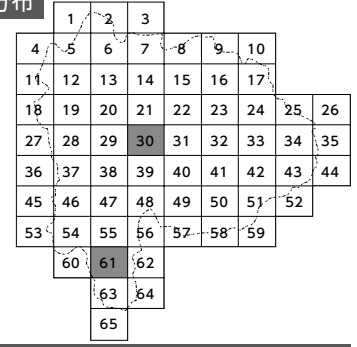
**特記事項** 出現メッシュ数、個体数を検討してIA類とした。 具体的要件②④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
野生絶滅 (EW)

分布



植物  
IA類

# ミヤマハナワラビ ハナヤスリ科

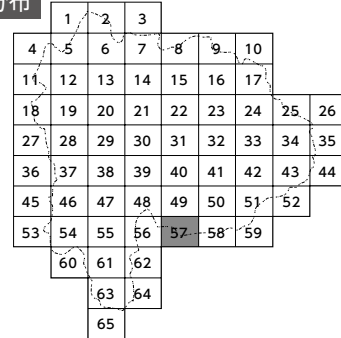
*Botrychium lanceolatum* (S.G. Gmel.) Angstr.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

分布



**形態** 夏緑性。共通茎の高さ3~5cm。栄養葉はほぼ全裂、小羽片は線形で、鈍鋸歯がある。2~5対で先は鈍頭で緑色。胞子葉は2回羽状に分岐し、多数の球形の胞子囊をつける。全長は5~15cm。

**生育環境** やや明るいシラビソの低木の林床に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。今回の調査で県内の林道林縁の草地で生育が確認された。

**特記事項** 出現メッシュ数、個体数を検討して I A 類とした。 具体的要件①②

# オオアカウキクサ サンショウモ科

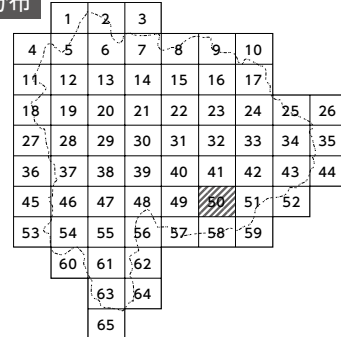
*Azolla japonica* (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



**形態** 茎は羽状に分かれ、葉と根を付ける浮遊性のシダである。全形は三角形~長三角形で長さが2cm前後になる。夏季は鮮緑色、冬季は濃紫紅色となる。

**生育環境** 水田や池に浮き草として生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。生育箇所は少ないが、生育地の個体数は多い。

**特記事項** 田や池の浮草のため、生育状況が安定しない。類似種で根に長い根毛があるアカウキクサとともに今後も継続調査が必要である。 具体的要件①

# デンジソウ デンジソウ科

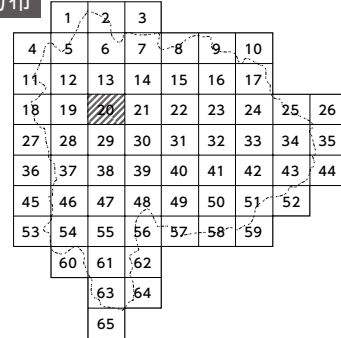
*Marsilea quadrifolia* L.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



**形態** 夏緑性。根茎は細く長く横走して不規則に分岐し、やや接して葉を着ける。葉柄は長さ10~15cm、無毛、緑色、基部は暗色。小葉は4枚が四つ葉のクローバーのように田の字形に並ぶ。胞子囊果は有柄で、葉柄の基部より少し上から出る短い枝に1~3個つく。

**生育環境** 低地の水田や沼地などに生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。生育地での個体数極めて少ない。本県では田の畦にあり環境変化による減少が懸念される。

**特記事項** 2017年11月に耕地整備があり保護された。公共事業などは適切な環境影響調査などの対策が必要である。 具体的要件①

# タキミシダ イノモトソウ科

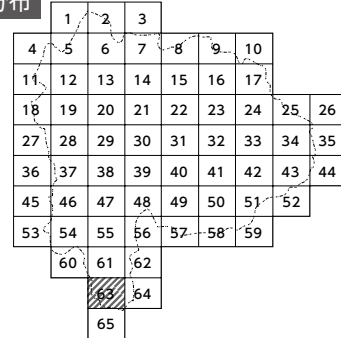
*Antrophyum obovatum* Baker

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



**形態** 常緑性多年草。根茎は斜上し、葉柄基部とともに、茶色で線形から被針形の鱗片を密生する。葉は単葉で、大きい葉は20cm以上になる。葉身には、はっきりした中肋はなく、脈は網状である。葉は肉厚である。胞子囊群は浅い溝に埋まるようにつき、線形で脈に沿って網目をつくる。

**生育環境** 樹林下の湿度の高い、こけなどの付着した岩の斜面に着生する。直射日光はほとんど入らない。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。生育地での個体数は少ない。分布限界種。

**特記事項** 具体的要件①②

# ヒメウラジロ イノモトソウ科

*Cheilanthes argentea* (S.G.Gmel.) Kunze

**形態** 常緑性。小さい根茎から小形の葉が多数集まって出る。葉柄は堅い針金状で紫褐色で光沢がある。葉面は卵状五角形で角が張っており、厚い角質、褐緑色である。裏面には、白い粉が厚く敷き詰められている。乾燥したときは、巻いて縮れる。胞子囊群は、葉の縁の近くにつき、縁が裏側へ折れかえって被う。

**生育環境** 日当たりのよい岩場や石垣の間に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。生育地での個体数は減少している。除草剤の駆除による絶滅が危惧される。

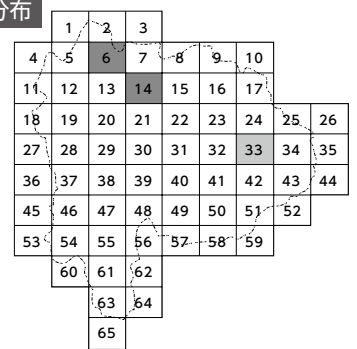
**特記事項** 具体的要件④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

分布



# ヤツガタケシノブ イノモトソウ科

*Cryptogramma stelleri* (S.G.Gmel.) Prantl

**形態** 夏緑性。根茎は匍匐し、細く褐色で膜質の鱗片をつける。葉は、高さ10～15cm、栄養葉と胞子葉の2形。栄養葉は、卵状被針形、1～2回羽状複葉、下部の羽片は3出状に分岐。胞子葉の羽片や裂片は、線形から被針形、胞子囊群は円く、反転した薄い葉縁で包まれる。

**生育環境** 高山の岩の間に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。生育地は限られている。

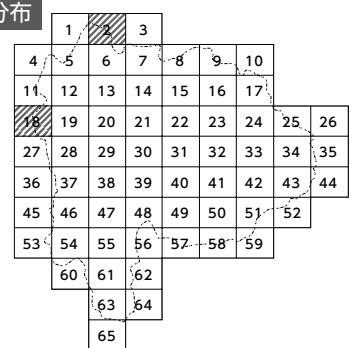
**特記事項** 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

分布



# フジシダ コバノイシカグマ科

*Monachosorum maximowiczii* (Baker) Hayata

**形態** 常緑性。根茎は短く斜上する。葉は叢生し長さ30～70cm。葉柄は細く無毛。葉身は1回羽状に分裂し、線状被針形、長さ20～40cm、幅2～3cm、草質で光沢がある。葉の先端は尾状に伸び、地面について無性芽を生じる。胞子囊群は、羽片の辺縁の近くに1列に並んで着く。

**生育環境** 樹林下の湿度の高く、こけなどの付着した岩の上に着生する。直射日光の少ない林下を好む。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数4。生育環境の良い場所では、群落をつくる。生育地の木が密生したため減少傾向。

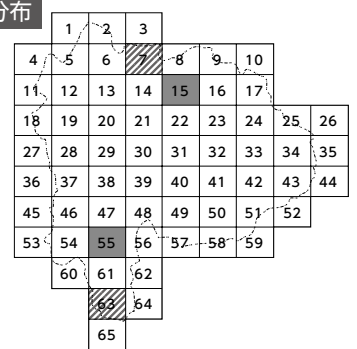
**特記事項** 具体的要件④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

分布



# イワウサギシダ ナヨシダ科

*Gymnocarpium robertianum* (Hoffm.) Newm.

**形態** 夏緑性。根茎は、ウサギシダより太く、長く匍匐する。葉は大きいものでは長さ30cmに達する。葉身は葉柄とほぼ同長あるいは短く、長三角形、2回羽状複葉。羽片は下から2～3対まではしっかりした柄を持つ。葉柄、葉軸、羽軸に腺毛を持つ。胞子囊群は、裂片の辺縁寄りにつく。

**生育環境** 標高千メートル以上の山地の林下岩地に生育している。石灰岩を好む。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。生育地での個数は少ない。

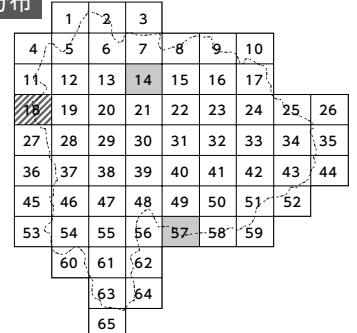
**特記事項** 今回の調査で1メッシュの報告なのでIA類とした。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB類 (EN)

分布



植物  
IA類

# イチョウシダ

チャセンシダ科

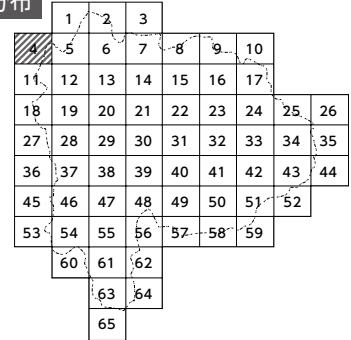
*Asplenium ruta-muraria* L.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



**形態** 常緑性。根茎は塊状で葉を叢生する。葉は、全長 4 ~ 12cm、2 回羽状複葉または単羽状に分かれ、羽片は 1 ~ 3 対で互生する。葉身は、ほぼ左右対称である。孢子嚢群と胞膜は線形、脈に沿って長くのび、胞子が熟すと互いが重なり合い、前縁部を残して広がる。

**生育環境** 石灰岩を含んだ岩の割れ目に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。生育地の個数も極めて少ない。生育地は動物食害の為、保護されている。

**特記事項** 具体的要件①

# コタニワタリ

チャセンシダ科

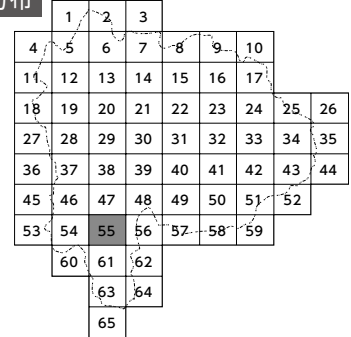
*Asplenium scolopendrium* L.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
なし

分布



**形態** 常緑性。根茎は短く斜上し叢生。葉は単葉で披針形、葉身基部は心形で側面は耳状になることが多い。葉質はやや厚く、光沢がある。孢子嚢群は線状で長く、中肋に広い角度で着く。

**生育環境** 沢沿いの潤湿な林床に群生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 2008 年群落を確認したが、2012 年土砂崩れにより激滅。今回の調査で出現メッシュ数 1。分布限界種。

**特記事項** 2014 年環境省カテゴリーには入っていないが、本県の状況から今回の調査より I A 類とした。 具体的要件①④

# コガネシダ

イワデンダ科

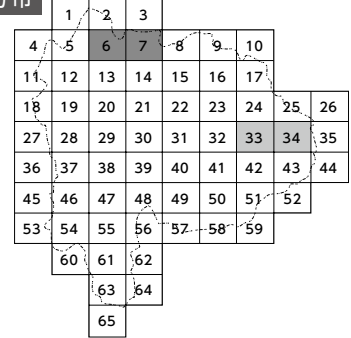
*Woodsia macrochlaena* Mett. ex Kuhn

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



**形態** 夏緑性。根茎は短く斜上し、葉を叢生する。葉は長さ 10 ~ 20cm。葉柄は黄褐色 ~ 赤褐色を帯びて光沢があり、上部に関節構造があり折れやすい。葉身は、広長楕円状披針形、2 回羽状中裂、羽片は羽状に浅裂 ~ 中裂し、葉の両面特に裏面に白い毛がある。孢子嚢群は、各裂片に数個ずつ縁よりに着く。

**生育環境** ある程度の日当たりのある岩の間や石垣に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。生育地での個体数は少ない。

**特記事項** 具体的要件④

# キタダケデンダ (ヒメデンダ)

イワデンダ科

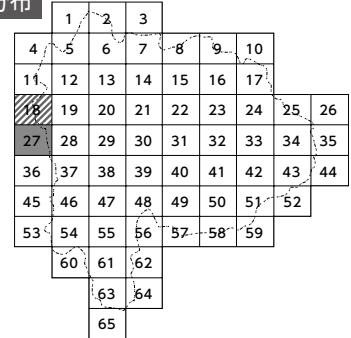
*Woodsia subcordata* Turcz.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



**形態** ヒメデンダともいう。夏緑性。葉柄は長さ 3 ~ 6cm、毛と鱗片がまばらにあり、中央またはそれより上に関節がある。葉身は狭披針形、長さ 5 ~ 12cm、幅 1 ~ 2cm、下部はしだいに狭くなる。葉の表面には毛があり、裏面には毛と鱗片がある。孢子嚢群は辺縁近くにつく。

**生育環境** 高山帯の岩の割れ目に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。生育地での個体数は極めて少ない。

**特記事項** 山梨県希少野生動物植物種の保護に関する条例による採取規制。2005 年出現メッシュ数 1。今回の調査で新たな生育地が確認された。 具体的要件②④



# テバコワラビ メシダ科

*Athyrium atkinsonii* Bedd.

**形態** 夏緑性。根茎は這い、葉を密接して着ける。葉は長さ80～150cm、無毛、葉柄は淡褐色光沢があり、基部に鱗片をつける。葉身は、柔らかい草質、広卵形、3～4回羽状複葉。葉軸は、やや折曲する特徴がある。胞子囊群は、小さく、ほぼ円形、裂片のやや中肋近くにつく。

**生育環境** 標高の高い山地の林内のやや湿潤な場所に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。生育地での個体は少ない。シカによる食害により絶滅が危惧される。

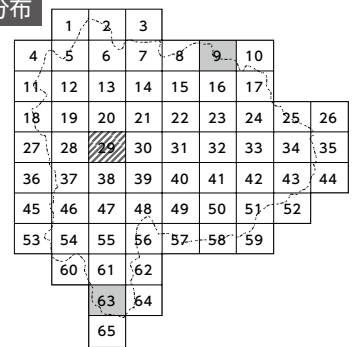
**特記事項** 個体数もかなり少ないため今回の調査でI A類とした。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B類 (EN)

分布



# ノコギリシダ メシダ科

*Diplazium wichurae* (Mett.) Diels var. *wichurae*

**形態** 常緑性。根茎は長く匍匐する。葉は40～70cm。葉柄は長く細く堅い、まばらに暗褐色の鱗片を着ける。葉身は1回羽状複葉、披針形、下部の羽片に短い柄があり、基部の羽片の上向きの方に大きな耳がある。葉身の上部はしだいに細くなり、先端が急に細く尾状にのびる。葉質は、革質、表面は光沢のある暗緑色、裏面は淡緑色。胞子囊群は羽片の軸の近く支脈の上に半月形につく。

**生育環境** 山地林下沢沿いの陰湿な場所に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。陰湿な場所に群落を作る。

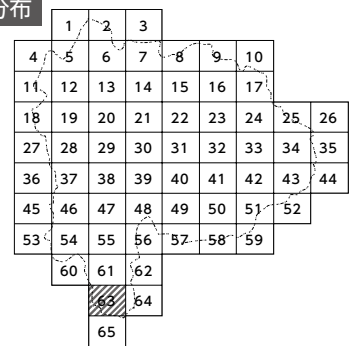
**特記事項** 具体的要件①④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

分布



# ホンバショリマ ヒメシダ科

*Thelypteris beddomei* (Baker) Ching

**形態** 夏緑性。根茎は長く横走する。葉は、2回羽状深裂、長楕円状披針形で下部数対は耳状、草質で淡緑色。葉柄は、わら色で半透明の鱗片をまばらに着く。胞子囊群は、裂片の辺縁寄りに着く。

**生育環境** 山地上部の丘陵地に群生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。分布限界種

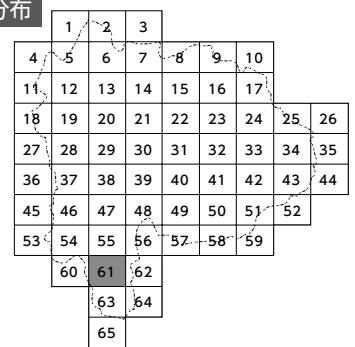
**特記事項** 2014年環境省カテゴリーには入っていないが、本県の状況から今回の調査よりI A類とした。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
なし

分布



# キンモウワラビ キンモウワラビ科

*Hypodematium crenatum* (Forssk.) Kuhn subsp. *fauriei* (Kodama) K.Iwats.

**形態** 夏緑性。根茎は太く、横走する。葉の根本には鱗片を密生する。鱗片の長さ3～4cm、幅3～4mm光沢のある褐色。葉柄は、わら色で50cmに達することもある。葉身は、3～4回羽状複葉、五角形から三角状長楕円形、長さ70cmを超えることもある。胞子囊群は裂片のやや中肋近くに着く。

**生育環境** 日当たりの良い田や道路の石垣に生育する。生育地は一部の地区に偏っている。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。道路工事等で減少の傾向にある。

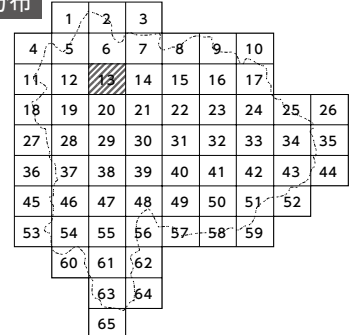
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

分布



I A類  
植物

# イワヘゴ オシダ科

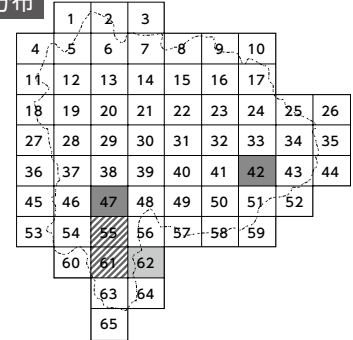
*Dryopteris atrata (Wall. ex Kunze) Ching*

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017 : 環境省カテゴリー  
なし

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 常緑性。根茎は太く短く直立し、葉を叢生する。葉の長さは 40 ~ 80cm、葉柄は葉身の半長より短く、葉身は 1 回羽状複葉、洋紙質、上部は急にとがり、基部はやや狭まる。鱗片は葉柄と葉軸に密生する。羽片は、20 ~ 30 対、水平に開出する。胞子囊群は、羽片の辺縁を除いた部分に散在する。

**生育環境** 山地の林内の沢沿いの水の流れるような場所に生育する。本県の生育地はかつてのワサビ畑である。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 4。生育地での個体数は非常に少ない。分布限界種。生育地の乾燥化を防ぐ必要がある。

**特記事項** 具体的要件④

# ヒイラギデンダ オシダ科

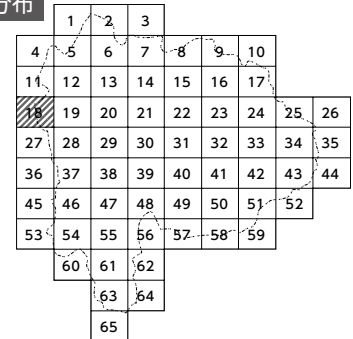
*Polystichum lonchitis (L.) Roth ex Roem.*

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017 : 環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 常緑性多年草。根茎は太く短く直立し、葉を叢生し、長さ 30cm 前後になる。葉身は、単羽状複葉、線状倒披針形で基部が狭まる。葉質は堅い革質。鱗片は、葉柄には 8mm ぐらいのもの、葉の表裏には、小形のもの着く。葉縁には、小さな鋸歯と先端が刺状になる大きな鋸歯がある。胞子囊群は、中肋と辺縁の中間に着く。

**生育環境** 高山のやや陰湿な岩場の溝に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1 である。生育地での個体数は極めて少ない。

**特記事項** 山梨県希少野生動物種の保護に関する条例による採取規制。具体的要件①②④

# オニイノデ オシダ科

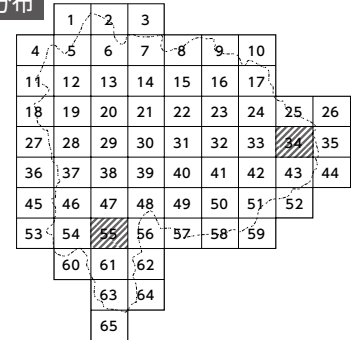
*Polystichum rigens Tagawa*

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017 : 環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 常緑性。根茎は短く、直立から斜上し、塊状となり鱗片を着ける。葉柄は葉身より少し短く、長さ 40cm に達し、茶褐色の鱗片を密に着ける。葉柄下部の鱗片は、黒褐色のものが混じる。葉身は、2 回羽状複葉、広披針形、長さ 40 ~ 70cm、葉質はかたい革質で羽片の辺縁には、鋸歯のようなかたい刺がある。胞子囊群は、小羽片のやや中肋より着く。

**生育環境** 林下の沢沿いの日当たりの少ない所に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。確認できた個体は 20 株ぐらいである。分布限界種。生育地の工事等の環境悪化が考えられる。

**特記事項** 具体的要件②

# イナツルデンダ オシダ科

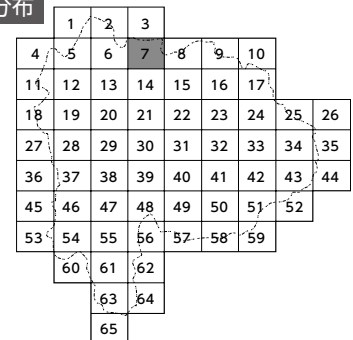
*Polystichum x pseudocraspedosorum Seriz.*

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017 : 環境省カテゴリー  
なし

2005 : 山梨県カテゴリー  
なし

## 分布



**形態** 常緑性。根茎は小さく塊状。葉は単羽状複葉、葉の先は伸びて無性芽を着ける。葉の長さは 8 ~ 15cm、淡緑色、厚い草質。鱗片は茶褐色で葉柄から葉軸に着け、特に葉柄には密に着ける。胞子囊群は、中軸と縁の中間に着き大きい。イナデンダとツルデンダの雑種、ツルデンダの羽片を切れ込ませた感じのシダ。

**生育環境** 亜高山帯の岩の隙間に群生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。長野県のイナデンダ生育地で確認されたが、他では確認されていない。

**特記事項** 本県の状況から今回の調査より I A 類とした。 具体的要件①③

# オオクボシダ ウラボシ科

*Micropolypodium okuboi (Yatabe) Hayata*

**形態** 常緑性。根茎は短く斜上し、数枚の葉を叢生する。葉の長さ15cm以下で極めて小さいものが多い。葉身は狭披針形～線形、羽状に深裂し、側羽片は、赤褐色の毛をつけ全縁。葉柄は2mmほどで短い。胞子囊群は楕円形で、羽片の基部近く中肋よりに1個ずつ並ぶ。

**生育環境** 樹林下のコケむした岩上に着生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。生育地での個数は極めて少ない。生育状態も悪いため出現メッシュは5カ所だがI A類とする。

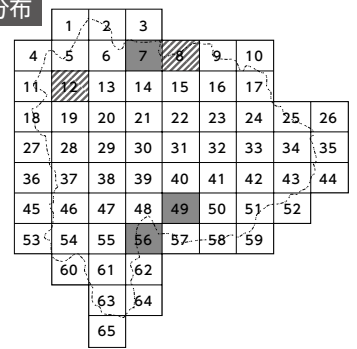
**特記事項** 具体的要件④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

分布



# クリハラン ウラボシ科

*Neolepisorus ensatus (Thunb.) Ching*

**形態** 常緑性。根茎は長く匍匐する。葉身は単葉、広披針形、長さ15～40cm、幅4～7cm、普通は中央がもっとも幅が広く、ほぼ全縁で紙質。胞子囊群は中肋の両側に1～4列にやや不規則に並ぶ。

**生育環境** 林下によく湿った岩上や土に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。生育地が著しく減少している。分布限界種。植生の変化や土地開発による絶滅が危惧される。

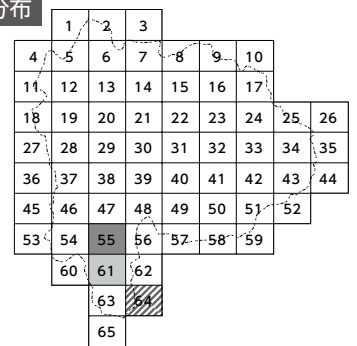
**特記事項** 具体的要件④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

分布



# カラクサシダ ウラボシ科

*Pleurosoriopsis makinoi (Maxim. ex Makino) Fomin*

**形態** 冬緑性。根茎は細く、赤褐色の毛をつけ、コケの間を長く這う。葉柄は葉身とほぼ同長で5cm以下。葉身は卵状長楕円形縁は全縁、両面に褐色の多細胞毛をつけ、葉質はやや厚めの紙質の深緑色。胞子囊群は、裂片の脈上に長くつき、熟すと裂片の裏面いっぱい広がって見える。

**生育環境** 樹林下の岩上や樹上の中のコケの中に混じって生育する。秋に芽を出し次の夏までに枯れる。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。生育地が渓谷地の岩上が多いので、災害の影響を受けやすい。

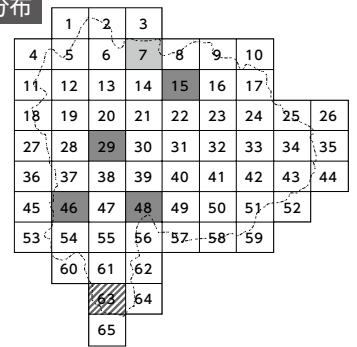
**特記事項** 具体的要件③④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

分布



# ヤツガタケトウヒ マツ科

*Picea koyamae Shiras.*

**形態** 常緑針葉高木。幹の高さ20m、径30～50cmぐらい。樹皮は灰褐色で鱗片状にはがれる。葉は線形長さ6～12mmで、断面は四角形。球果はずんぐり形からやや長形の円筒形。花期5～6月。

**生育環境** 亜高山帯針葉樹林に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。個体数ごく少ない。森林伐採、土地開発で絶滅が懸念される。2005年調査では出現メッシュ数2。これまでの経過から継続してI A類とした。

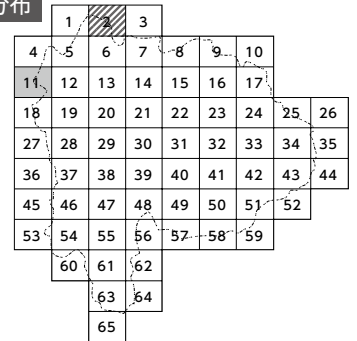
**特記事項** 元来本種とヒメマツハダ (*Picea shirasawae*) とは別種とされてきたが、2000年RDB・環境庁編では区別困難として同一種され、ヤツガタケトウヒに統一されている。したがって本県分布のヒメマツハダもヤツガタケトウヒとして扱った。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

分布



I A類  
植物

# ヒメザゼンソウ サトイモ科

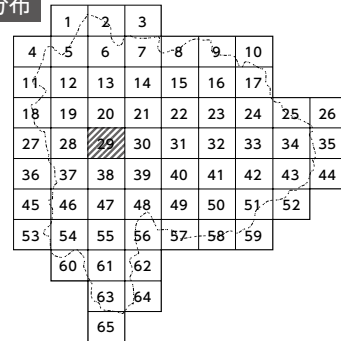
*Symplocarpus nipponicus* Makino

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017 : 環境省カテゴリー  
なし

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

**分布**



**形態** 葉は早春に出る。葉は長柄あり、葉身は卵状楕円形で、長さ10~20cm、幅7~12cm。花序の仏炎苞は暗紫褐色を帯びる。花期は6月。

**生育環境** 山地帯の湿地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。個体数は少ない。開発や自然の遷移、環境の改変によっては絶滅が懸念される。

**特記事項** 具体的要件①②

# ムラサキタカネアオヤギソウ(タカネシュロソウ) シュロソウ科

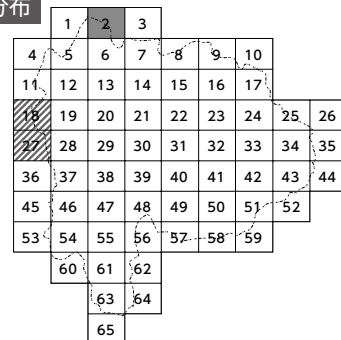
*Veratrum maackii* Regel f. *atropurpureum* (Honda) T. Shimizu

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017 : 環境省カテゴリー  
なし

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

**分布**



**形態** シュロソウの高山型で、別名タカネシュロソウとも呼ぶ。高さ20~40cm。偽茎はシュロ毛状の繊維で被われている。葉は根生または茎の下部に集まる。葉身は細長く、長さ6~15cm。花は紫褐色。花期は7~8月。

**生育環境** 高山帯の草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。個体数は少なくない。自然遷移や踏みつけによる個体数の減少が懸念される。

**特記事項** 個体数は増加の傾向にあり今後のランクについては検討の余地がある。 具体的要件④

# カイコバイモ ユリ科

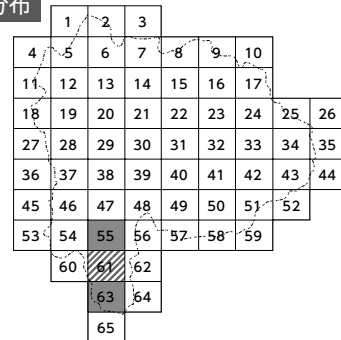
*Fritillaria kaiensis* Naruh.

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017 : 環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

**分布**



**形態** 多年草。コバイモに似ているが、さかずき状鐘形の花をつけ、蜜腺の位置は基部に近くにある。花被片に斑紋はないか、ほんやりした程度。また花被片の中肋に突起がない。また、縁にもふつう突起がない。花期は4~5月。

**生育環境** 山地の林下に生育。山梨県・静岡県の一部に生育しているが、稀少なものである。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。生育地も限られ生育個体数が少ない。採取や環境の変化による絶滅危惧の恐れが高い。

**特記事項** 具体的要件③④

# コシノコバイモ ユリ科

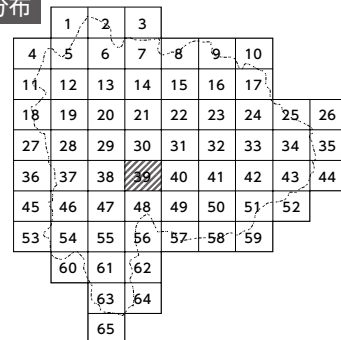
*Fritillaria koidzumiana* Ohwi

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017 : 環境省カテゴリー  
なし

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

**分布**



**形態** 多年草。鱗茎は球形で、2個の半球形の鱗片からなる。茎は直立し、高さ10~20cm。対生する葉と、その上に3枚の輪生する葉がある。茎頂に角ばった鐘形の花を1個つける。花被片は淡黄色で、暗紫色の網目模様があり、縁や内面の中脈に沿って突起がある。花期は4~5月。

**生育環境** 「日本の野生植物I」に、日本の分布は福島県・新潟県・静岡県と記載されているが、本県でも山地の林下に生育を確認。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。個体数は非常に少ない。採取や植生の遷移による絶滅が危惧される。

**特記事項** 具体的要件①②



# ヒメアマナ ユリ科

*Gagea japonica Pascher*

**形態** 多年草。鱗茎は広卵形で、外皮は黒褐色。全草が繊弱で、根出葉は1個。茎は10～20cm茎頂に数個の黄色の花をつける。花期は4～5月。

**生育環境** 湿った原野や疎林下に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。生育箇所および個体数も少なく、生育環境の変化に影響を受けやすいので、森林伐採による絶滅の危惧が高い。

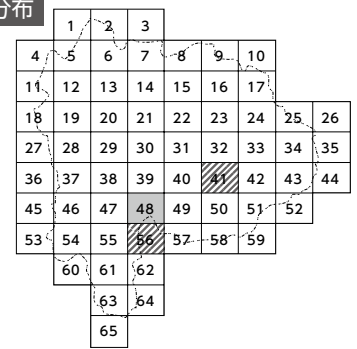
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

分布



# ササユリ ユリ科

*Lilium japonicum Houtt. var. japonicum*

**形態** 多年草。鱗茎は径2～4cmの広卵形。草丈は50～100cm。葉は互生し有柄、葉身は長さ8～15cmの披針形。花は茎の先端に1～3個横向きにつけ、花被は淡紅色で漏斗形、花被片は長さ10～15cmの倒披針形、先はわずかに反りかえる。さく果は3～4cmの倒卵形。花期は6～7月。

**生育環境** 本州中部以西に分布し、日当たりのよい山地の草地に生育する。県内では自生地が3カ所確認されているのみで、環境の変化に大変敏感である。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。県内での生育地が限られ園芸採取自然遷移による絶滅が危惧される。

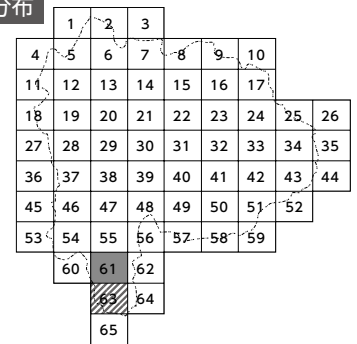
**特記事項** 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「少」と記載されており、今回の調査でも出現メッシュ数2と少なかった。 具体的要件②④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

分布



# スルガジョウロウホトギス ユリ科

*Tricyrtis ishiihana (Kitag. et T.Koyama) Ohwi et Okuyama var. surugensis T.Yamaz.*

**形態** 多年草。茎は長さが20～50cm。葉の基部は深心形で、両側の耳片が茎を抱く。花は茎頂に2～5個つく。花は下向きに開き、花被片は黄色で、鐘形に半開する。サガミジョウロウホトギスとは違い、外花被片の基部の距は長さ2mmくらいで小さく、葯が赤褐色。花期は9～10月。

**生育環境** 湿り気のある岩場に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。個体数は極めて少ない。

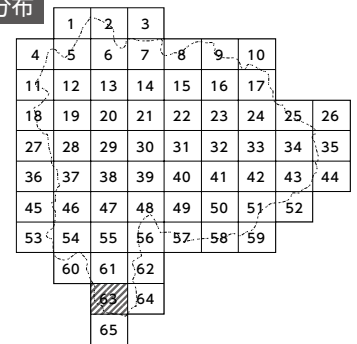
**特記事項** 具体的要件①④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

分布



# ミスズラン ラン科

*Androcorys pusillus (Ohwi et Fukuy.) Masam.*

**形態** 多年草。茎は5～15cm。茎の基部に倒披針状楕円形で、長さ2～3cmの葉を1個つける。花は淡緑色で6～7月に数個つける。唇弁は舌状披針形で、長さ1.5mm程度。距がない。

**生育環境** 亜高山帯の針葉樹林下に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。生育地は2カ所で、生育個体数は少ない。踏みつけや雪崩などの環境変化による絶滅が危惧される。

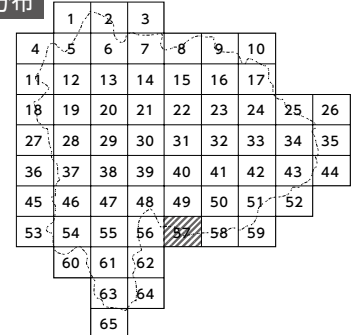
**特記事項** 具体的要件①②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

分布



植物  
IA類

## シラン ラン科

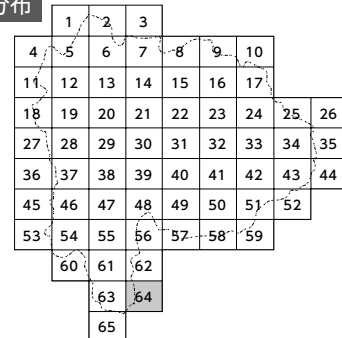
*Bletilla striata* (Thunb.) Rchb.f. var. *striata*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

### 分布



**形態** 偽球はやや扁平な円形。葉は数枚で長楕円～長披針形。花は4～5月頃咲き、紅紫色、唇弁の縁は内曲して先は3浅裂し、内面に5個の隆起線がある。

**生育環境** 日本の分布は本州中南部～琉球。暖地の河川の岩石地の斜面に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 2005年出現メッシュ数1。生育地は保護されているが、生育個体数は少なく、採取圧による絶滅の恐れが高い。これまでの経過からIA類とするが今後も継続調査が必要な種である。

**特記事項** 具体的要件①④

## キノエビネ ラン科

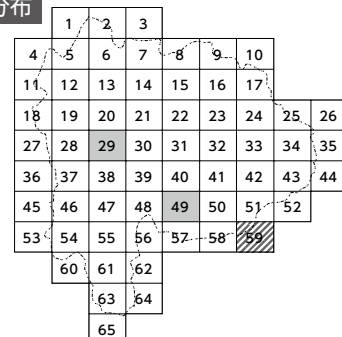
*Calanthe alpina* Hook.f. ex Lindl. var. *schlechteri* (H.Hara) F.Maek.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

### 分布



**形態** 偽球茎は球状。葉は3～4個つき、倒卵状狭長楕円形。花茎は20～30cm。7月頃、帯紫色の花を下向きに咲く。唇弁はほぼ半円形で、縁には細かい鋸歯がある。距は長く後方に突き出す。

**生育環境** 山地帯上部（ブナ帯）のやや湿った混交林下に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。個体数は数個体。園芸採取及び植生遷移による絶滅の危険性が高い。

**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。具体的要件①④

## ホテイラン ラン科

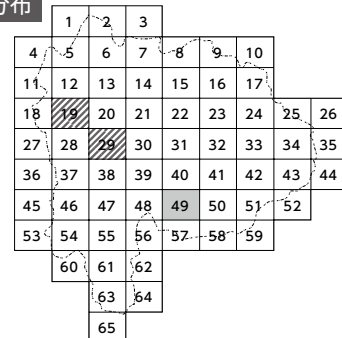
*Calypso bulbosa* (L.) Oakes var. *speciosa* (Schltr.) Makino

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

### 分布



**形態** 紡錘状に肥厚した偽球の先から1茎と1葉を出す。葉の縁は波状に縮れ葉脈に沿って皺があり下面は紫色を帯びる。花は5～6月開き、淡紅色。唇弁は下垂し、白色で内面に褐色の斑がある。先は距となり2裂する。

**生育環境** 山地帯～亜高山帯の針葉樹林下に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。生育個体数は少ない。採取圧及び植生遷移による絶滅が危惧される。

**特記事項** 山梨県希少野生動物種の保護に関する条例による採取規制。2005年調査では出現メッシュ数3。過去に報告のあった場所にも生育が考えられる。具体的要件②

## ユウシュンラン ラン科

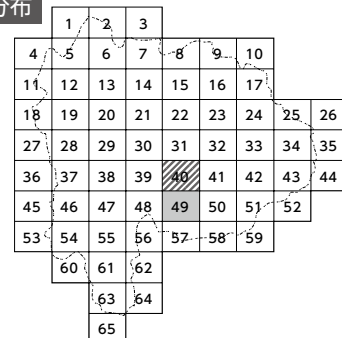
*Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume var. *subaphylla* (Miyabe et Kudō) Ohwi

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

### 分布



**形態** ギンランの変種で葉が退化して鱗片状となる。上部の葉は2cm内外の葉質となることもある。花被片は平開しない。唇弁の先は3裂する。

**生育環境** 山地～ブナ帯下部のやや湿った腐植土の多い樹林下に生える森林の伐採など生育環境の変化による減少が危惧される。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。山林の伐採や採取による減少が懸念される。

**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数2。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。具体的要件①

# オノエラン ラン科

*Chondradenia fauriei* (Finet) Sawada ex F.Maek.

**形態** 茎は高さ10～15cm。葉は長楕円形で地表に接近して2枚互生につく。茎頂に白色花を数個つける。唇弁はくさび形に広がり、中央がやや凹み基部にY字状の黄色斑がある。距は太く球状で蕊柱は短い。花期は7～8月。

**生育環境** 山地帯（ブナ帯）の草地や岩場に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 2005年出現メッシュ数2。今回は報告がなかった。これまでの経過からIA類とするが、園芸採取、林道開発による絶滅が危惧される。

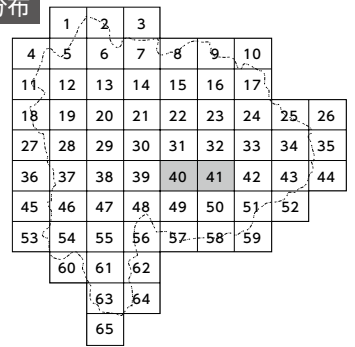
**特記事項** 2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IA類 (CR)

## 分布



# ホテイアツモリ ラン科

*Cypripedium macranthos* Sw. var. *macranthos*

**形態** 茎は高さ20～40cm。葉は有毛で互生する。アツモリソウに似るが、花は濃紅紫色で袋状唇弁は円い感じがする。花期は6～7月。

**生育環境** 亜高山帯の草原に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。今回1カ所で確認できた。植生の遷移の心配もあるが、採取による絶滅が危惧される。

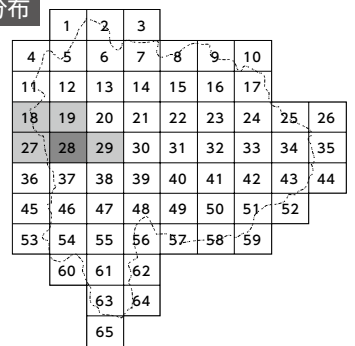
**特記事項** 種の保存法指定種、山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例該当種であるが、シカの食害による環境の変化により殆どの生育地で見られない、絶滅寸前。 具体的要件①④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧IA類 (CR)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IA類 (CR)

## 分布



# アツモリソウ ラン科

*Cypripedium macranthos* Sw. var. *speciosum* (Rolfe) Koidz.

**形態** 茎の高さ20～40cm。茎、葉とも全体に毛がある、茎頂に紅紫色の花を1個、希に2個つける。唇弁は袋状で上部は開口し、開口部の縁は内巻になる。花期は5～6月。

**生育環境** 山地の草原や明るい樹林下に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数4。植生の遷移の心配もあるが、採取による絶滅が危惧されるためIA類とした。

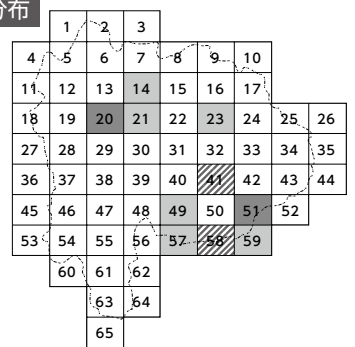
**特記事項** 種の保存法指定種、山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例該当種であるが、未だに採取する人がおり、個体数の減少が目立つ。一部の生育地は人工授粉、種子の自然散布による保護増殖を図っている。 具体的要件③④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

## 分布



# キバナノアツモリソウ ラン科

*Cypripedium yatabeanum* Makino

**形態** 地下茎は長く横に這い、節から地上茎を出す。葉は互生するが接近して対生状。茎頂に淡黄緑色の花が横向きに1個、希に2個咲く。唇弁は長楕円形の袋状、上部は広く開口し側花弁と共に茶褐色の斑紋がある。

**生育環境** 亜高山帯の草地・落葉樹林下や林縁に生育。(男鹿半島・中部地方、特にフォッサマグナ周辺に生育)

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。園芸採取・植生の遷移による絶滅が危惧されるため今回からIA類とした。

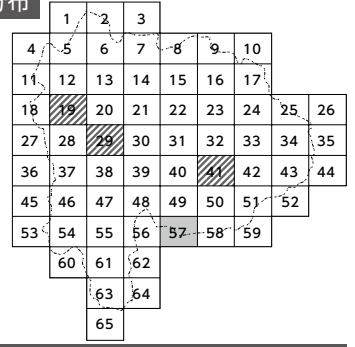
**特記事項** 山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例該当種であるが、園芸採取が後を絶たない状況。2005年調査では出現メッシュ数4。 具体的要件③④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

## 分布



植物  
IA類

# ハコネラン ラン科

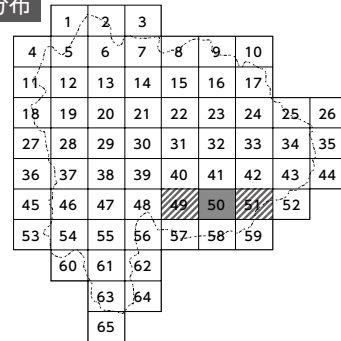
*Ehippianthus sawadanus (F.Maek.) Ohwi ex Masam. et Satomi*

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017 : 環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 葉は卵形～楕円形で1個。花茎は細く高さ10～20cm。花茎の上部に3～6個花をまばらにつける。唇弁は中央部から基部にかけて縁に鋸歯がある。蕊柱の両側に腕状突起がある。

**生育環境** 山地帯上部（ブナ帯）の樹林下や林縁に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。生育個体数は少ない。植生遷移・森林伐採・登山道整備などによる絶滅が危惧される。

**特記事項** 具体的要件③④

# カキラン ラン科

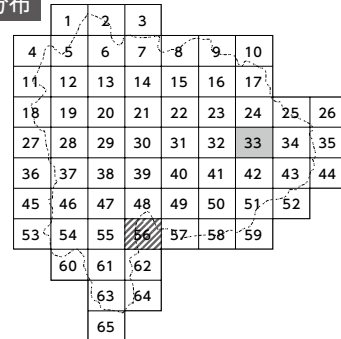
*Epipactis thunbergii A.Gray*

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017 : 環境省カテゴリー  
なし

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 根茎は横に這う。茎は高さ30～70cm。葉は5～10枚つけ、狭卵形で、長さ7～12cm。6～8月、黄褐色の花を花茎に10個ほど横向きにつける。唇弁は関節によって上下2唇に分かれる。

**生育環境** 山地帯の湿ったところに生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。植生遷移による絶滅の恐れが高い。

**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数2。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①

# トラキチラン ラン科

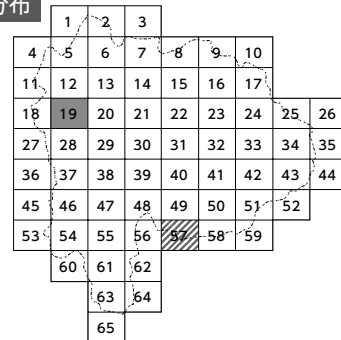
*Epipogium aphyllum Sw.*

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017 : 環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 菌従属栄養植物。茎は高さ10～30cm。まばらに膜質の鞘状葉がある。花茎にややまばらに2～8個の花をつける。花は微褐色。唇弁は3裂、唇弁の内面や距の背線に紅紫色の細点がつく、果柄は180度捻えず、唇弁は上の位置にある。

**生育環境** 亜高山の針葉樹林の林床に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。植生の遷移や森林伐採による絶滅の恐れが高い。

**特記事項** 具体的要件②

# アオキラン ラン科

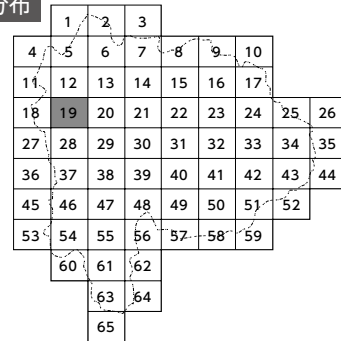
*Epipogium japonicum Makino*

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017 : 環境省カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2005 : 山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

## 分布



**形態** 菌従属栄養植物。茎は直立し高さ10～20cm、肉質で淡黄色～淡褐色。花は4～7個を総状につける。花色は苞とともに、開花時の淡黄色から淡褐色にかわる。長さ約20mm、幅10mm、短い花柄があり下垂する。側花弁は萼片よりすこし短く、紫色の斑点がある。唇弁は広卵形、全縁で両面ともに紫色の斑点がある。背面に微細な突起がある。花期は8～9月。

**生育環境** 亜高山の落葉広葉樹林の腐植土の多い林床に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。「南アルプスの花たち：1993.6.30 村松正文」に記載がある、今回の調査で初確認された。

**特記事項** 2005年調査では情報不足としたが、今回確認できたのでI A 類とした。 具体的要件①



# ツリシュスラン ラン科

*Goodyera pendula Maxim.*

**形態** 常緑性の着生ラン。茎は短く横に這うが、先が下垂する。長さ5～15cm。葉は互生し広披針形、鋭頭。花茎は反曲し立ち上がり、上部に小さな白色花を一方に多数つける。花は半開性。花期は7～8月。

**生育環境** 山地帯（ブナ帯）の湿度の高い樹幹や苔むした岩上に着生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。個体数は非常に少ない。森林伐採による絶滅が危惧される。

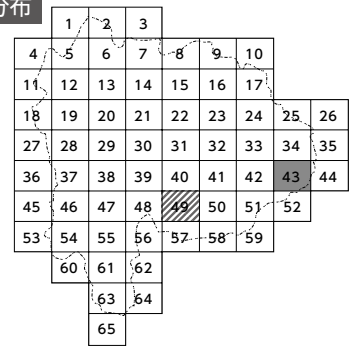
**特記事項** 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

分布



# ハクウンラン ラン科

*Kuhlhasseltia nakaiana (F.Maek.) Ormerod*

**形態** 茎の下部は地表を這い、上部は斜上して高さ3～13cm。葉は卵円形で先は尖る。花茎の上部に1～5個の白色または淡紅色の花を横向きにつける。唇弁は基部が袋状に膨らみ、先が浅く2裂した距となる。花期は7～8月。

**生育環境** 山地帯（ブナ帯）の常緑広葉樹林または落葉広葉樹林の湿った林床に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数4。森林の改変による絶滅が危惧される。

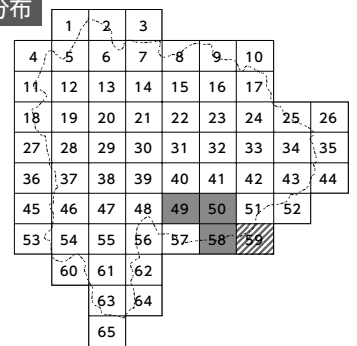
**特記事項** 具体的要件③④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

分布



# フガクスズムシソウ ラン科

*Liparis fujisanensis F.Maek. ex Kōta et S.Matsumoto*

**形態** 着生ラン。葉は2枚で卵状楕円形。花茎は15～30cm。花期は6～7月。花茎に5～10個の暗紅紫色の花をつける。側花弁は披針形、唇弁は倒卵形で縁に微鋸歯があり中央に浅い溝をもつ。唇弁の上半部は強く反曲。

**生育環境** 山地帯（ブナ帯）ブナ、ミズナラ、イタヤカエデ等の古木の樹幹に着生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。園芸採取や森林伐採による絶滅が危惧される。

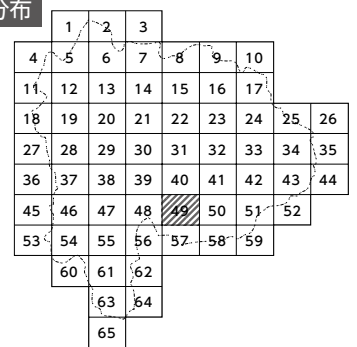
**特記事項** 具体的要件①④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

分布



# セイトカスズムシソウ ラン科

*Liparis japonica (Miq.) Maxim.*

**形態** 偽球茎は楕円状球形。茎の高さは20～40cmで、葉は広楕円形。淡緑色～帯紫色の花をまばらにつける。唇弁は倒卵形、長さ7～9mm。円頭で微凸端になり、縁に細歯がある。

**生育環境** 山地～ブナ帯のやや明るい林内や草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。園芸採取や植生遷移による減少が懸念される。個体数が少ないためIB類からIA類へ変更した。

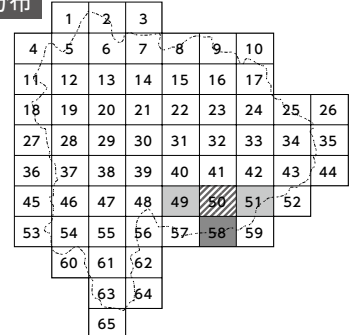
**特記事項** 2005年出現メッシュ数3。過去に報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB類 (EN)

分布



I A類 植物

# アウドオシラン ラン科

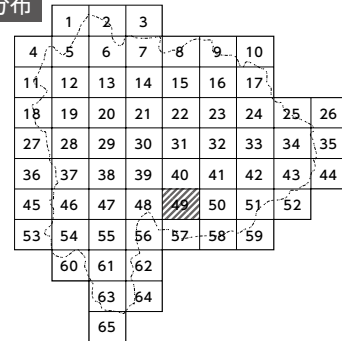
*Myrmechis japonica (Rchb.f.) Rolfe*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 根茎は地上を横に這う。茎の高さ5～10cm。葉は広卵形で柄があり3～5枚が互生する。花は茎の上部に横向きにつき半開する。唇弁の基部は胞状に膨らみ中部は狭く先端部は2裂する。花期は7～8月。

**生育環境** 山地帯（ブナ帯）の夏緑広葉樹林や混交林のコケの生えた林床に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。踏みつけや森林伐採による減少が懸念される。

**特記事項** 具体的要件①

# フジチドリ ラン科

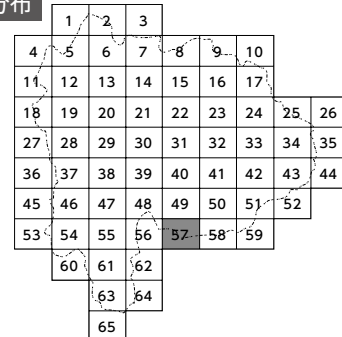
*Neottianthe fujisanensis (Sugim.) F.Maek.*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

## 分布



**形態** 多年生の着生ラン。高さ4～7cmの小型の着生植物。茎は細く、楕円形の先端が尖った葉が1個ある。6～7月、淡紫色の花を3～5個、片側に疎らにつける。萼片と側花弁が兜状。唇弁は舌状楕円形で、側裂片は小さく目立たず、唇弁は下垂して縦に濃紫色の斑紋がある。距は萼片より短く、前方に曲がり、先端は円い。

**生育環境** 亜高山帯の落葉広葉樹の樹幹にコケと共に着生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。今回の調査で生育を確認したが個体数は少なく自然遷移による絶滅が懸念されるためI A 類とした。

**特記事項** 具体的要件①

# コハクラン ラン科

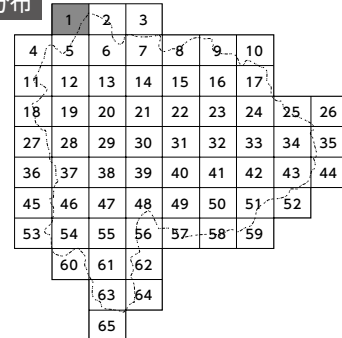
*Oreorchis indica (Lindl.) Hook.f.*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

## 分布



**形態** 多年草。茎の高さは20～40cm。葉は1枚付き、狭披針形で縦じわがあり、主脈は白い。花は茎の上部に総状花序に付き、長さ8mmほど。唇弁は白色で紅紫色の斑紋があり、先端が3裂する。花期は6～7月。

**生育環境** 亜高山帯の針葉樹林にコケと共に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。今回の調査で1メッシュで生育が確認されたので情報不足をI A 類に変更した。

**特記事項** 具体的要件①

# ヒロハトンボソウ ラン科

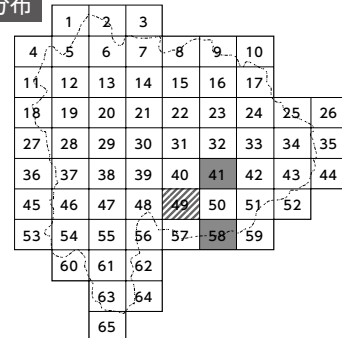
*Platanthera fuscescens (L.) Kraenzl.*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 根は紡錘状に肥厚し大きな根に無性繁殖体(ラメット)を作る。茎は高さ25～50cmで、中部に2～3個の葉があり、上部のものは苞葉となる。葉は広楕円形で長さ10～20cm、巾3～8cm、穂状花序に淡緑色の花を密につける。唇弁は長さ5mm内外、基部で3裂し、距は長さ7～9mm。花期は7～8月。

**生育環境** 亜高山帯の草地や林床に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。個体数は非常に少ない。森林伐採による絶滅が危惧される。

**特記事項** 具体的要件③④

# シロウマチドリ ラン科

*Platanthera hyperborea* (L.) Lindl.

**形態** 茎の高さ15～50cm。葉は狭長楕円形で5～7枚が互生につき上部の葉は小さくなる。花は小さく多数を穂状につける。花は淡緑色。唇弁は長楕円状卵形で、長さ5～6mm。花期は7～8月。

**生育環境** 高山帯の湿った草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。生育個体数、生育地とも少ない。崩壊などによる地形変化による絶滅が危惧される。

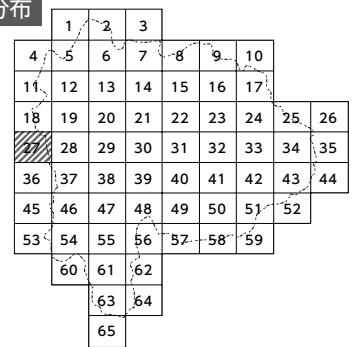
**特記事項** 北海道、本州中部以北に分布。具体的要件①④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



# オオヤマサギソウ ラン科

*Platanthera sachalinensis* F.Schmidt

**形態** 茎の高さ30～50cm。葉は2～3枚、長楕円形。表面にやや光沢がある。7～8月頃、総状に多数の緑白色の花をつける。唇弁は広線形で、長さ5～7mm。距は細く長さ15～20mmで下垂し湾曲する。

**生育環境** 山地帯の林縁や林床に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数6。点々としかなく個体数は少ない。植生遷移による絶滅が危惧される。

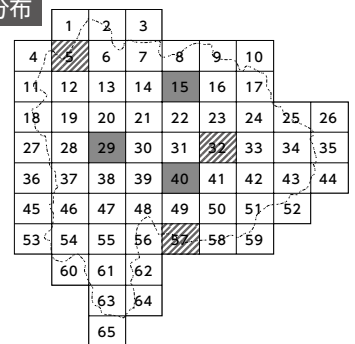
**特記事項** 個体数も少なくI A 類とした。 具体的要件③④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



# ウチョウラン ラン科

*Ponerorchis graminifolia* Rehb.f. var. *graminifolia*

**形態** 根茎は楕円状球形。茎の高さ7～20cm。葉は線形～広線形で茎を抱く。花は紅紫色。唇弁は深く3裂し、距は太く湾曲する。花期6～8月。

**生育環境** 山地帯（ブナ帯）の岩上び生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。園芸採取により大幅に減少している。今後も、園芸採取による絶滅が危惧される。

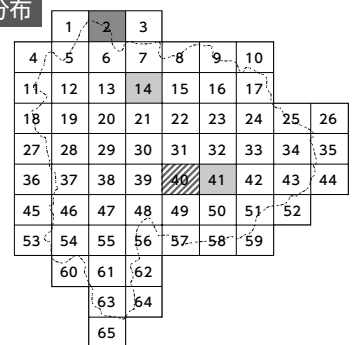
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



# クモラン ラン科

*Taeniophyllum glandulosum* Blume

**形態** 根は長さ2～10cm、灰緑色で扁平、放射状に束生し、樹皮に密着する。茎はきわめて短く、6～7月、長さ4～7mmの細い花茎を1～5本出し、1～3花を総状につける。苞は三角形、長さ1mm、鋭頭。萼片と側花弁は淡緑色、基部で合着して筒型となり、長さ2mm。

**生育環境** 暖温帯～熱帯の木の樹幹や枝の明るい部分に着生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。県内では分布がきわめて少なく、今回の調査で県南部で確認された。

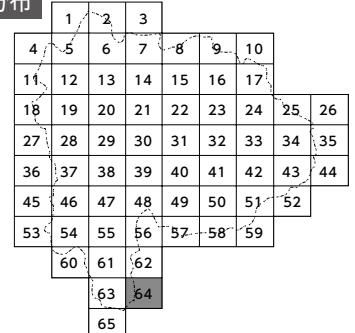
**特記事項** 本県の状況から今回の調査よりI A 類とした。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
なし

分布



I A 類  
植物

# キバナノショウキラン ラン科

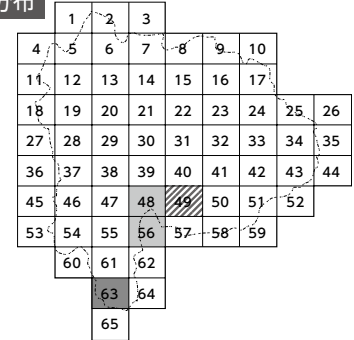
*Yonia amagiensis Nakai et F.Maek.*

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017 : 環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

## 分布



**形態** 菌従属栄養植物。草本全体が黄褐色。茎の高さ 20 ~ 40cm、根茎は分枝し塊状になる。茎は分枝し肉質で黄褐色の花を 6 ~ 15 個つけ、上向きに半開する。唇弁は舟形先端の凹みに黄色の長毛が密生する。距は長さ約 6mm。花期 7 ~ 8 月。

**生育環境** 太平洋要素分布型。山地帯（ブナ帯）の落葉樹林の林床やササ原に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。倒木や森林伐採による生育地の環境変化での絶滅が危惧されるため今回から I A 類とした。

**特記事項** 本州関東以西、四国、九州に分布。2005 年出現メッシュ数 3。 具体的要件②④

# ヒメシャガ アヤメ科

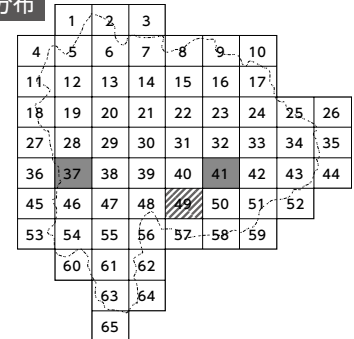
*Iris gracilipes A.Gray*

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017 : 環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 多年草。地下茎は横に這って分岐する。葉は薄くて草質、長さ 20 ~ 40cm、幅 5 ~ 12mm。花は径 5cm。外花披片は倒卵形で中央に白い隆起線と 1 個の黄斑がある。内花披片はさじ型。花期は 5 ~ 6 月。

**生育環境** やや乾いた林縁に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数は 3。個体数は少ない。採取による絶滅が危惧される。

**特記事項** 具体的要件③④

# ミクリ ガマ科

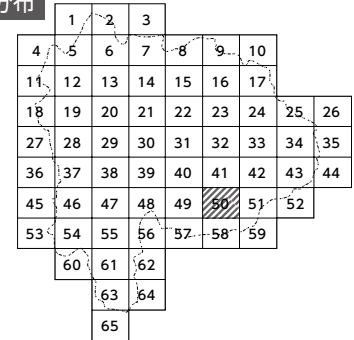
*Sparganium erectum L. var. erectum*

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017 : 環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 多年草。地下茎は横走して群落を作る。茎は直立し、高さ 70 ~ 100cm。花序は枝分かれし、上部に雄生球花、下部に雌性球花をつける。花期は 6 ~ 8 月。

**生育環境** あまり川幅の広くない、浅い水中に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。河川改修工事などで絶滅が危惧される。

**特記事項** 具体的要件①

# ナガエミクリ ガマ科

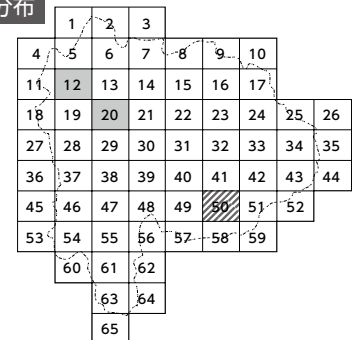
*Sparganium japonicum Rothert*

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017 : 環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

## 分布



**形態** 多年草。茎は直立し、高さ 40 ~ 100cm。花序の上部に雄生球花、下部に雌性球花をつける。下から 1 ~ 3 個の雌性球花に柄があり、腋生になる。花期は 7 ~ 8 月。

**生育環境** 池や浅い河川に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。湖沼・河川改修工事などで絶滅が危惧される。2005 年調査では I B 類だが今回の調査で I A 類とした。

**特記事項** 2005 年調査では樁池で確認したが、池の環境変化で今回は消滅した。 具体的要件①④



# ジョウロウスゲ カヤツリゲサ科

*Carex capricornis* Meish. ex Maxim.

**形態** 多年草。茎は株をつくり、高さ30～70cm。葉は硬く、幅4～5mm。茎の上部に4～6個小穂が集まる。雄小穂は線形で茎に頂生、雌小穂は楕円形で側生。果胞の長さは7～9mmで長い嘴がある。

**生育環境** 湖の砂地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。富士五湖の砂浜に生育し、個体数は少ない。湖岸の開発による絶滅が危惧される。

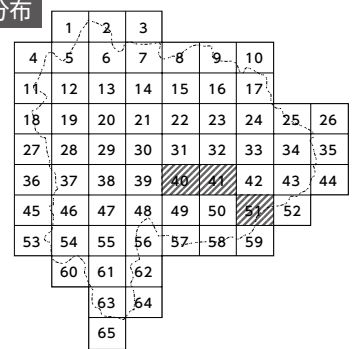
**特記事項** 具体的要件③④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

分布



# ミヤマクロスゲ カヤツリゲサ科

*Carex flavocuspis* Franch. et Sav.

**形態** 多年草。茎は細く、高さ20～50cm。小穂は3～5個が茎の上部に斜上する。頂小穂は雄性で長楕円形、長さ1～2cm。側小穂は雌性で、長楕円形または円柱形、長さ1.5～3cm。雌性の鱗片は卵形または卵状披針形、黒褐色。果胞は淡黄緑色で楕円形、細脈がある。嘴は短く口部は全縁または凹形になる。

**生育環境** 高山帯のやや乾いた草原。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 2005年出現メッシュ数1。個体数は少ない。自然遷移や踏みつけによる減少が懸念される。これまでの経過から継続してIA類として調査を行う。

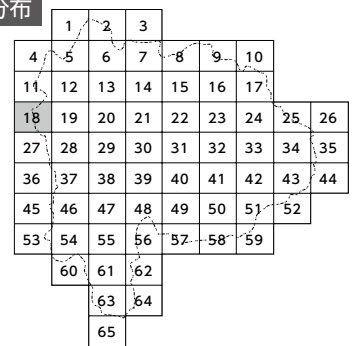
**特記事項** これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられるので、継続してIA類として調査を行う。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

分布



# センジョウスゲ カヤツリゲサ科

*Carex lehmannii* Drejer

**形態** 多年草。茎の高さ20～30cm。小穂は茎の上部に3～4個で、密に花をつける。果胞は開出し、黄色で楕円形、ふくれた3稜形。8月に熟す。

**生育環境** 亜高山帯上部の林下。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。個体数は50株以下で非常に少ない。

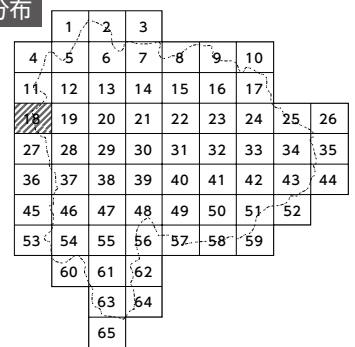
**特記事項** 具体的要件①②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

分布



# サギスゲ カヤツリゲサ科

*Eriophorum gracile* K.Koch

**形態** 多年草。長い地下茎がある。茎の高さ20～50cm、茎には少数の線形の葉をつける。花序は散形状で、2～5個の小穂からなる。小穂は花時には長さ0.5～1cm。果時には綿毛（花被片）が伸びる。花期は6～8月。

**生育環境** 山地帯の湿原。県内では、八ヶ岳山麓の一部と南アルプスの麓に生育の記録があった。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。生育範囲も狭く、個体数は少ない。湿地開発による絶滅、湿地の環境変化による絶滅が危惧される。

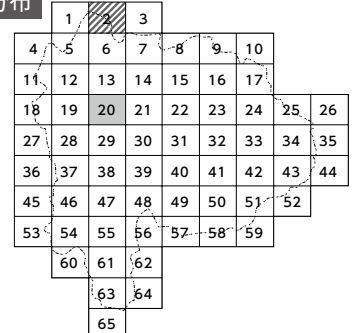
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数2であった。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

分布



植物  
IA類

# コマツカサスキ カヤツリゲサ科

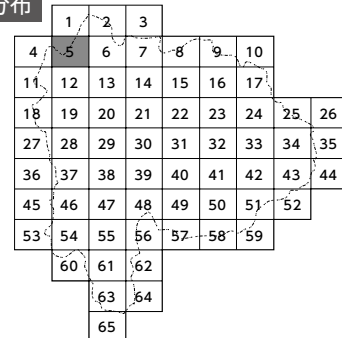
*Scirpus fuirenoides Maxim.*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

分布



**形態** マツカサスキに似るが全体に細い。側生の分花序は 1 ~ 2 個の小穂集団。頂生の分花序は 1 回分枝して 3 ~ 6 個の枝に小穂集団をつける。

**生育環境** 湿地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。2005 年の調査では不確実であったが今回 1 メッシュを確認した。

**特記事項** 出現メッシュ数 1。個体数の関係で今回から I A 類とした。 具体的要件①

# ヒメマツカサスキ カヤツリゲサ科

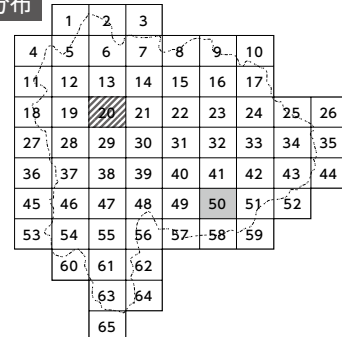
*Scirpus karuisawensis Makino*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



**形態** 多年草。マツカサスキとコマツカサスキの中間型。頂生分花序は 2 回分岐する。側生分花序は 5 ~ 10 個の小穂が集まる。

**生育環境** 湿原や湿地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。個体数は非常に少ない。湿地開発による絶滅が危惧される。

**特記事項** 山梨県希少野生動物種の保護に関する条例による採取規制。2005 年調査では出現メッシュ数 2。これまでの経過から 2005 年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①

# ササクサ イネ科

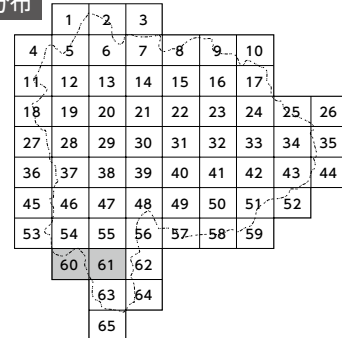
*Lophatherum gracile Brongn.*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



**形態** 多年草。茎の高さ 40 ~ 80cm。稈は束生し硬い。葉身は披針形、長さ 10 ~ 30cm、幅 2 ~ 5mm。円錐花序で、長さ 10 ~ 30cm、数個の枝が出る。小穂の長さ 8 ~ 11mm。最下の小花 1 個が両性花で、上方に 4 ~ 6 個の不稔の小花がある。

**生育環境** 日本では、本州（関東地方以西）から琉球まで分布する暖地植物。県内では南部町以南の林内に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 2005 年出現メッシュ数 2。シカの食害等で生育地が減少している。個体数は少なく、植生遷移や森林伐採による絶滅が危惧される。これまでの経過から I A とするが減少が心配される。

**特記事項** 2005 年調査では出現メッシュ数 2。これまでの経過から 2005 年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

# タカネタチイチゴツナギ イネ科

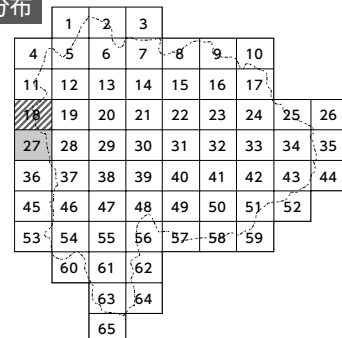
*Poa glauca Vahl var. glauca*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



**形態** 多年草。茎は 15 ~ 30cm で叢生し、根茎は短く匍匐枝はない。花序は円錐花序で長さ 3 ~ 7cm。小穂は長さ 3 ~ 4mm、2 ~ 3 小花からなる。

**生育環境** 中部地方の高山帯の岩礫地にまれに生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。個体数は少ない。踏みつけによる絶滅が危惧される。

**特記事項** 2005 年調査では出現メッシュ数 2。これまでの経過から 2005 年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

# キタダケイチゴツナギ イネ科

*Poa glauca* Vahl var. *kitadakensis* (Ohwi) Ohwi

**形態** 多年草。茎は15～30cmで叢生し、匍匐しない。円錐花序。タカネイチゴツナギの変種で、小穂の長さが5～6mm、苞穎の先が芒状にとがり、花序も10cm以上。

**生育環境** 北岳の礫地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。個体数は少ない。踏みつけによる絶滅が危惧される。

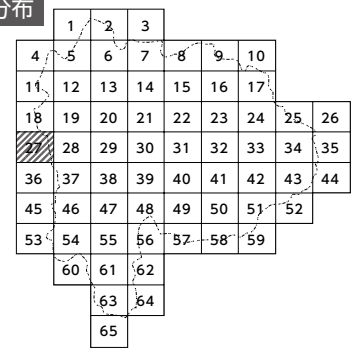
**特記事項** 具体的要件①②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

分布



# ヒゲナガコメスキ イネ科

*Stipa alpina* (F.Schmidt) Petrov

**形態** 多年草。茎は叢生し、高さ15～30cm。葉身は内側に巻き糸状。花序は円錐形で、小穂は1小花。護穎の先は2裂し、間から長さ15～22mmの羽状で太い芒が出る。

**生育環境** 高山帯の砂礫地。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。生育地は極く限られており、踏みつけによる絶滅が危惧される。

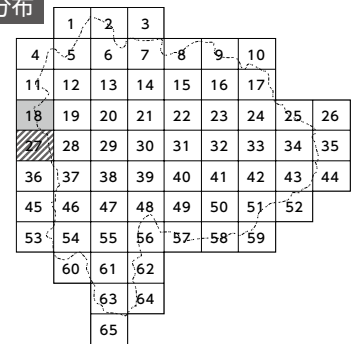
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数2であり、これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育の可能性がある。 具体的要件②④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

分布



# ミヤマカニツリ イネ科

*Trisetum koidzumianum* Ohwi

**形態** 多年草。茎は直立し、高さ20～30cm。まばらに軟毛がはえる。円錐花序で小穂は密につく。小花は2で、帯黄色、しばしば紅紫色になる。護穎の先は2裂し、その間から4～5mmの芒が出て、外側に強く曲がる。

**生育環境** 高山帯の草地に生える。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。登山者の踏みつけによる個体数減少が危惧される。

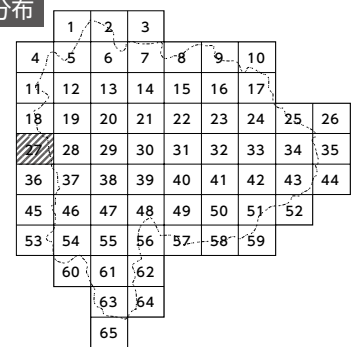
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

分布



# オオサワトリカブト キンポウゲ科

*Aconitum senanense* Nakai subsp. *senanense* var. *isidzukai* (Nakai) Kadota

**形態** 多年草。高さ20～50cm。葉は5深裂し。葉の裏面の脈上や葉柄に開出毛がある。花柄に開出毛が密生する。花期は8～9月。

**生育環境** 富士山の亜高山帯上部の草地や林縁に生育する。自然遷移や採取による絶滅が危惧される。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。個体数は非常に少ない。

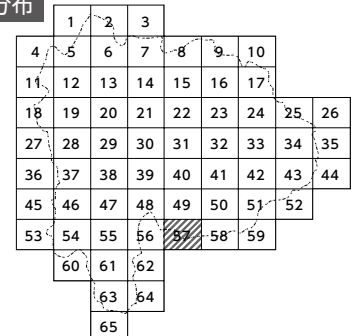
**特記事項** ホソバトリカブト *Aconitum senanense* に非常に似ている。ホソバトリカブトの葉の両面脈上や葉柄は曲がった毛がある。 同定が難しい個体もある。 具体的要件①②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

分布



植物  
I A類

## リュウキンカ キンポウゲ科

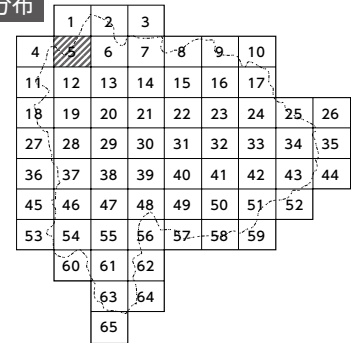
*Caltha palustris* L. var. *nipponica* H.Hara

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

### 分布



**形態** 多年草。根出葉は円形～筒形。花茎は立って 15～20cm。5～7 月茎の上か茎葉の腋より花をつける。花卉と見えるのは萼片で黄色、普通 5 枚。

**生育環境** 山地の湧水地、水湿地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。個体数は少ない。分布地限界種。別荘の開発により個体数は減少し、絶滅が危惧される。

**特記事項** 具体的要件①

## チチブシロカネソウ キンポウゲ科

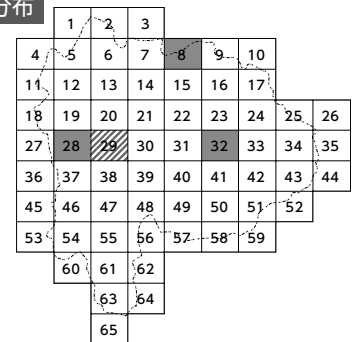
*Enemion raddeanum* Regel

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

### 分布



**形態** 多年草。高さ 20～30cm。根生葉は 1 回 3 出複葉、小葉は 3 裂し、鋸歯がある。茎葉の下部のものは有柄で互生してつく。上部のものは無柄で 3 枚が輪生する。花は白く上向きに咲く。雌ずい及び袋果が 3～5 個離生することで、シロカネソウ属と分けている。

**生育環境** 山地帯上部の樹林下に生育。日本では長野県以東に分布するが、今回の調査では本県の生育地は 4 カ所。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 4。森林の伐採などによる環境変化による絶滅が危惧される。

**特記事項** 具体的要件③④

## キタダケキンポウゲ キンポウゲ科

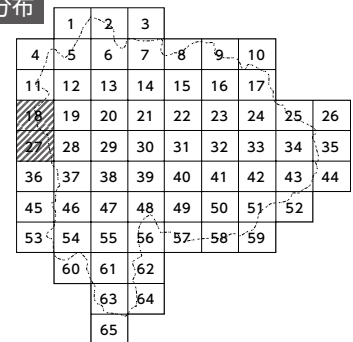
*Ranunculus kitadakeanus* Ohwi

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

### 分布



**形態** 多年草。高さ 5～20cm。根生葉は 3～4 枚。葉身は 3 深裂し、側裂片はさらに 2～3 裂する。上部の茎葉は 3 全裂。花は茎の先に 1 個つける。黄色の萼片の外側には白色の軟毛がある。花卉の長さ 6mm で長楕円形。そう果の長さは約 1.5mm。花期は 7～8 月。

**生育環境** 高山帯の砂礫地。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。個体数が少ない。踏みつけ・傾斜地の崩壊による減少が懸念される。

**特記事項** 山梨県希少野生動物植物種の保護に関する条例による採取規制。具体的要件②

## ヒメカラマツ キンポウゲ科

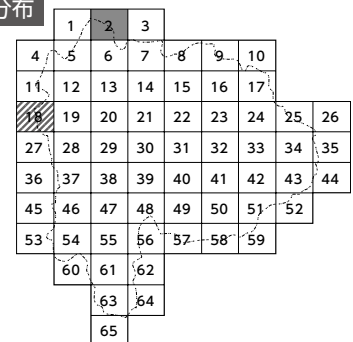
*Thalictrum alpinum* L. var. *stipitatum* Y.Yabe

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

### 分布



**形態** 多年草。草丈は花茎を含め 8～20cm。根生葉は多数束生し有柄、長さ 1～8cm の 2～3 回 3 出複葉。茎葉は 1～2 枚つける。花は黄緑色で総状につき、花卉はなく、萼片は早落性。雄しべの花糸は糸状。果実はやや扁平な紡錘形で 4～6 個つく。花期は 7～8 月。

**生育環境** 本州中部の高山帯の草地に分布し、県内では 2 カ所の高山帯で確認できた。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。自然遷移による絶滅が危惧される。

**特記事項** 「山梨の植物・1981 年（昭 56）植松春雄」によると「稀」と記載されている。今回の調査でも新たな生育場所が確認され出現メッシュ数 2 となった。 具体的要件②④



# ベニバナヤマシャクヤク ボタン科

*Paeonia obovata Maxim.*

**形態** 多年草。ヤマシャクヤク (*P. japonica*) に似るが、葉の裏面に軟毛を散生し、花弁は淡紅色、花柱はやや伸長し外に強く曲がる。茎は緑白色を帯び 100cm に達する。花期は 6 月。

**生育環境** 全国各地に分布し、山地の林床に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 3。個体数は少ないため I B 類から I A 類へ変更した。森林伐採、園芸採取、自然遷移による減少が懸念される。

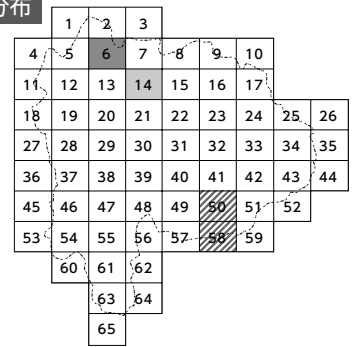
**特記事項** 具体的要件③④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



# ムカゴユキノシタ ユキノシタ科

*Saxifraga cernua L.*

**形態** 多年草。高さ 5 ~ 15cm。茎葉は数個。下部の葉は 5 ~ 7 中裂する。葉腋や苞の腋に赤紫色の珠芽ができる。総状花序。花は白色。正常花は頂の 1 ~ 2 個で、他は珠芽に変わる。花期は 7 月下旬 ~ 8 月上旬。

**生育環境** 高山帯の岩礫地。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。個体数は非常に少ない。踏みつけによる絶滅が危惧される。

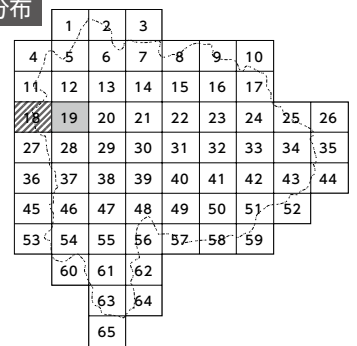
**特記事項** 2005 年調査では出現メッシュ数 2 であり、これまでの経過から 2005 年調査で報告のあった場所にも生育の可能性がある。具体的要件②④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



# マツノハマソウ ベンケイソウ科

*Sedum hakonense Makino*

**形態** 多年草。茎は基部で枝分かかれし、花茎の高さ 5 ~ 10cm。葉は互生し、肉質でやや扁平。集散花序。10 ~ 20 個の黄色の花を付ける。花期は 7 ~ 8 月。

**生育環境** ブナ帯の巨木に着生する。分布が雨量・湿度の高い地域に限られる。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 3。樹上着生種であり個体数が非常に少なく環境変化の影響を受けやすいため生育地の樹木の伐採はせず森林の保全が必要。

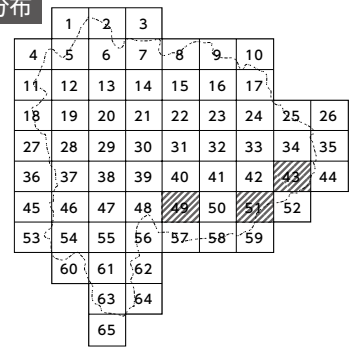
**特記事項** 具体的要件③④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



# タヌキマメ マメ科

*Crotalaria sessiliflora L.*

**形態** 1 年草。高さ 20 ~ 50cm で全体に褐色の長毛がある。葉は線形 ~ 狭長卵形でほとんど柄がない。花は青紫色。萼は褐色の毛が密生する。花期は 7 ~ 9 月。

**生育環境** 日当たりのよい草地や道ばたに生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 2005 年出現メッシュ数 1。今回の調査では未確認であったがこれまでの経過から I A 類として継続調査が必要。分布域が限定されている。自然遷移による生育地、個体数の絶滅が危惧される。

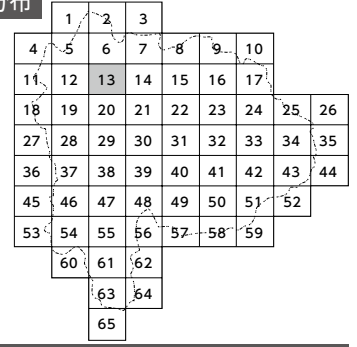
**特記事項** 具体的要件①④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



I A 類  
植物

# ヒナノキンチャク ヒメハギ科

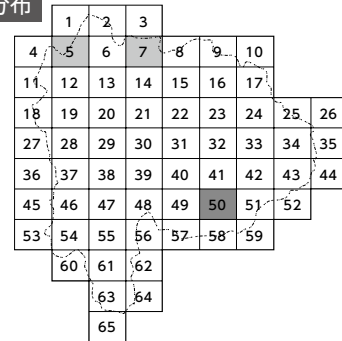
*Polygala tatarinowii* Regel

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 1 年草。茎は基部から分枝し、高さ 7 ~ 15cm、隆起線がある。葉は薄く、卵円形 ~ 楕円形、基部は葉柄に沿下する。葉縁に鋸歯はなく毛がある。花は淡紫紅色で茎や枝に偏って多数着く。花期は 7 ~ 10 月。

**生育環境** 日当たりのよい山野に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。分布域が限られ個体数も少ない。自然遷移による絶滅が危惧される。

**特記事項** 2005 年調査では出現メッシュ数 2。これまでの経過から 2005 年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①④

# ギンロバイ(ハクロバイ) バラ科

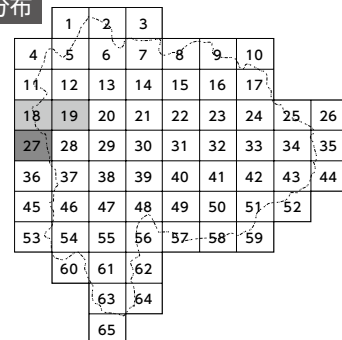
*Potentilla fruticosa* L. f. *mandshurica* (Maxim.) Rehder

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

## 分布



**形態** 落葉小低木。高さ 30 ~ 100cm。葉は 5 個の長楕円形の小葉からなる。小葉には毛がある。花は白色で、径 20 ~ 25mm。花期は 7 ~ 8 月。

**生育環境** 分布は本州 (南アルプス・大台ヶ原)・四国 (剣山・立石山)。本県では、南アルプスの亜高山帯の岩場に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。個体数は少ない。採取による減少が懸念される。出現メッシュ数 1 のため IA 類とした。

**特記事項** 2005 年出現メッシュ数 2。今回の調査で新たに 1 メッシュ内に数カ所確認をしたが、継続した調査が必要である。 具体的要件②

# イワシモツケ バラ科

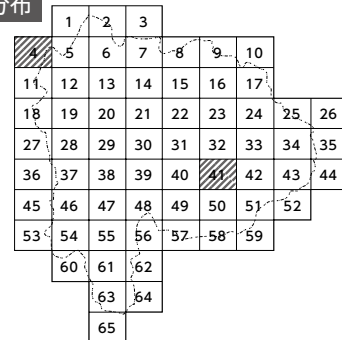
*Spiraea nipponica* Maxim. var. *nipponica*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 落葉低木。高さ 1 ~ 2m。若い枝は赤褐色。稜があって無毛、古い枝は灰黒色。葉は互生。葉身は 1 ~ 3cm の倒卵状長楕円形 ~ 円形。変異が多い。全縁又は先端に鈍い鋸歯が数個。質は厚く両面とも無毛。5 ~ 7 月に散房花序を出し、直径 7 ~ 10mm の白い花を多数つける。

**生育環境** 山地の蛇紋岩や石灰岩地に生育する。個体数は非常に少ない。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。個体数は非常に少ない。自然災害などの地形変化による絶滅が危惧される。

**特記事項** 具体的要件②

# カジノキ クワ科

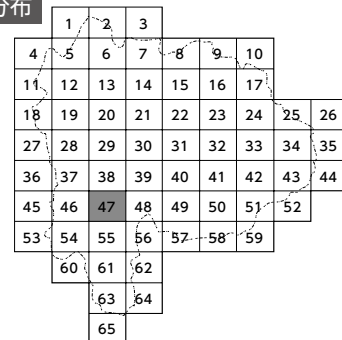
*Broussonetia papyrifera* (L.) L'Hér. ex Vent.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

## 分布



**形態** 古い昔から和紙の原料として栽培され、山野に野生化しているが原産地は不明。落葉高木で高さ 4 ~ 10m になるとされるが刈り払いされるので目につくものは 2m ぐらいが多い。葉は不ぞろいな卵形。雌雄異株。

**生育環境** 里山の林縁又は山畑の「畦」などに生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。2005 年調査では以前の分布地に見当たらずに資料が取れないために情報不足としたが、それ以後の調査で再確認された。

**特記事項** 個体数は少ないため、今回の調査では IA 類とした。 具体的要件①

# キスミレ スミレ科

*Viola orientalis (Maxim.) W.Becker*

**形態** 多年草。茎は直立し、高さ10～15cm。茎葉は茎の上方に3～4個つき卵心形につく。花は黄色で、唇弁と側弁に褐色の条があり、距はごく短い。花期は4～5月。

**生育環境** 日当たりの良い山地の樹林下や林縁また草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数4。採集圧や植生遷移による絶滅が危惧される。

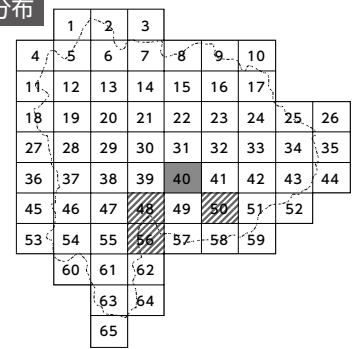
**特記事項** 具体的要件③

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

分布



# マツバニンジン アマ科

*Linum stelleroides Planch.*

**形態** 日当たりのよい草地に生える高さ40～60cmの1年草。全体無毛。茎は上部で枝分かれする。葉は互生。狭長楕円形、先は尖り基部はしだいに細まり、柄はない。花期は8～9月。花は淡紫色で径1cm。

**生育環境** 草原に生育するが減少している。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。今回の調査で生育が確認された。草原の減少に伴って減少の危険性がある。

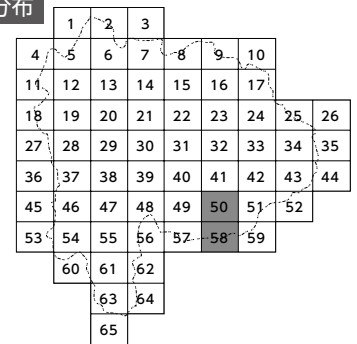
**特記事項** 2014年環境省カテゴリーIA類。本県の状況から本種は今回の調査からIA類とした。具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2005：山梨県カテゴリー  
なし

分布



# トダイアカバナ アカバナ科

*Epilobium platystigmatosum C.B.Rob.*

**形態** 多年草。高さ7～30cm。茎には稜線はなく、曲がった毛が生える。葉は長楕円形～卵状披針形、長さ1～4cm、幅1.5～5mm。縁に細鋸歯がある。花は淡紅色か白色。柱頭は棍棒状。花期は8～9月。

**生育環境** 日当たりのよい、砂礫地に生育。本県では県境の釜無川で発見。石灰岩地に関わりありと考えられる。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。河川流域なので、自然災害等危惧されることと砂防工事等による減少が危惧される。

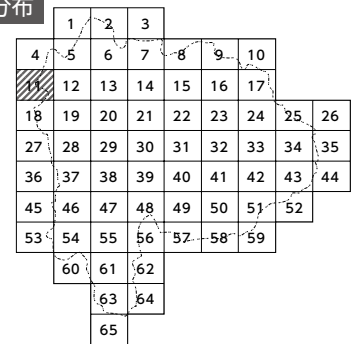
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

分布



# ウメハタザオ アブラナ科

*Arabis serrata Franch. et Sav. var. japonica (H.Boissieu) Ohwi f. grandiflora (Nakai) Ohwi*

**形態** 多年草。葉は長楕円形で浅い鋸歯縁があり、茎を抱く。両面には星状毛がある。花は白く、背丈の割に大きく、花弁の長さ10～12mm。花期は7～8月。近縁のイワハタザオの高山型で花が大きい。

**生育環境** 高山帯の砂礫地。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。個体数が非常に少ない。踏みつけによる絶滅が危惧される。

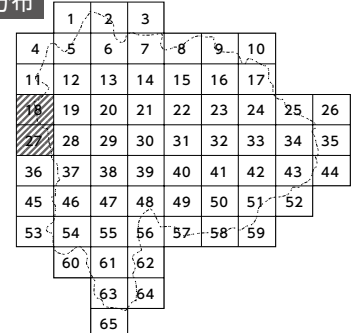
**特記事項** イワハタザオの背丈の低い物もあり、同定が難しい。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

分布



I A類  
植物